

PMI 日本支部
アニュアルレポート
2016

What is PMI?

PMIとは

米国防総省が国防、航空宇宙など大規模プロジェクトを管理するためにマネジメント手法を体系化したのが始まりとされるプロジェクトマネジメント。その後、製造・建設・エンジニアリング・化学産業等への展開を経て、プロジェクトマネジメントを職業とする職業人団体として1969年に米国ペンシルバニア州フィラデルフィアのとある民家のダイニング・ルームから始まったのがPMI(Project Management Institute)でした。

PMIがまとめたプロジェクトマネジメントの知識体系PMBOK®(Project Management Body of Knowledge)ガイドは、1984年のプロトタイプ版を基とし初版出版は1987年。その後もボランティアの献身的な作業により4年ごとに改訂が繰り返され、現在の最新版は2012年の年末に発行された第5版となっており、2017年第三四半期には第6版が発行される予定です。

世界標準となった「プロジェクトマネジメント」は、世界中のさまざまな分野で実践されています。

PMI Japan Chapter

PMI日本支部とは

1998年、PMIの日本国内唯一の支部として「PMI 東京支部」が設立されました。その後、2009年に「一般社団法人 PMI 日本支部」と名称を変え、国内におけるプロジェクトマネジメントの普及を目的に、さまざまなステークホルダーと共に活動しています。

その「協働」は、会員ボランティアや法人スポンサーに支えられつつ、各種イベントや研究会の開催、PMI 出版書籍の日本語訳・販売等を通じて、会員の方々が自身のPMスキルの研鑽につながっています。また、プロジェクトマネジメント、プログラムマネジメント、ポートフォリオマネジメント、そして近年注目を浴びているビジネス・アナリシスなどの手法の啓蒙へと活動の質的拡大も続けています。

Contents

2	PMIと日本支部のミッション
4	会長メッセージ
5	PMI日本支部の組織
5	(組織構成、ミッション委員会、企画委員会)
6	2016年のトピックス
6	日本フォーラム2016
8	Japan Festa 2016
10	主要成果
10	構造改革
10	LM2016
11	海外コンGRES
12	インドネシア支部共催セミナー
12	JISA-PMコミュニティ
13	新会員オリエンテーション
14	中期3か年計画
16	PMI標準
18	プロジェクトマネジメントの動向
20	会員向けサービス
20	個人会員制度
22	法人スポンサー・プログラム
23	行政プログラム
24	アカデミック・プログラム
26	各種セミナー
26	月例
26	オンライン
26	アジャイル
26	デザイン思考
27	ソーシャル・プロジェクト・マネジメント
27	PMBOK®
27	リスクマネジメント
27	PMO
27	フリーセミナー 8ヶ所
28	部会活動
28	首都圏中心の支部会員による活動
33	関西ランチ所属支部会員による活動
35	中部ランチ所属支部会員による活動
35	法人スポンサー社員による活動
37	情報発信
37	ホームページ
38	ニューズレター
38	メルマガ
38	Facebook
39	販売図書
40	決算報告
41	理事名簿
42	スポンサー一覧

会長メッセージ

日頃 PMI 日本支部の活動にご参加・ご支援をいただき誠にありがとうございます。

2016年は、温暖化の影響と思われる異常気象や、大きな地震が各地で頻発した感のある年でした。

日本を取り囲む政治・経済・社会の環境が益々激動化する兆しを見せる中、これら自然災害も経済成長への足かせとなり、デフレ脱却を期したアベノミックスも翻弄され、経済の回復は鈍い動きを示しています。

そのような中、PMI 本部は、「プロジェクトマネジメント」から、「プログラムマネジメント、ポートフォリオマネジメントへ」、「チェンジマネジメント、ビジネスアナリシスへ」、さらに「ベネフィット・実現・マネジメントへ」と、次々に新たな標準や方向性を打ちだし、激動の中でもプロジェクト・マネジャーがイニシアティブを発揮することを強く求めています。

日本支部の活動に目を向けますと、2016年は、支部会員数は引き続き増加傾向を堅持しました。二大イベントである7月の日本フォーラムと11月のJapan Festaもおかげさまで盛況裡に終了しました。また、昨年に引き続き部会リーダーに参加いただいた「リーダーシップ・ミーティング2016」の合宿では、日本支部の現状と課題を共有することができました。

国際連携の面では、PMI Region9に属する北東アジアの各支部（韓国、香港、台湾、モンゴル）や中国、PMI Global Operation Center との交流や協業も、引き続き充実させました。さらに、日本支部の部会の一つであるIRC(International Relation Community) はインドネシア支部との共催セミナーを実現しました。PMI 日本支部が提供できるこれらグローバルな友好ネットワークを会員の皆さまや、法人スポンサーの皆さまにも是非ご活用いただきたいと考えております。

ガバナンスの面では、2016年度は2017年から始まる新しい3ヶ年中期計画を策定しましたが、現下の目まぐるしい環境変化に柔軟に対応すべく本計画は定期的に見直しを実施していく所存です。本計画を着実に実現し、皆さまに価値のあるサービスを提供させていただくために、理事、ミッション委員会、事務局が一体となって邁進していきます。

会員さま向けサービスの面では、PMBOK® の改訂作業進捗状況や新標準類の動向について全国8カ所でのフリーセミナーを通じて紹介しあげました。また、在京の部会活動を通じた個々の成果の周知・展開のほか、関西・中部各ブランチの活動を通じたより身近な地域向けサービスの拡充にも傾注しています。さらに、地方公共団体や高専・大学といった教育機関への貢献・協働、災害復興支援を中心とした社会的プロジェクトへの取り組みも継続してまいりました。

なお、初の試みとして、12月には新規入会された方々にお集まりいただき、日本支部の会員サービス、活動内容をご紹介するオリエンテーションを実施し好評をいただきました。

法人スポンサーの皆さまには、各種セミナーなどへの割引参加特典や、スポンサー企業社員による自主的な勉強会(Study Group)活動などを支援させていただきました。

情報発信の面では、ホームページやFacebookあるいは、イベント会場などできる限り多くの媒体・機会を利用して日本支部の活動を紹介させていただきました。特に、ホームページにはセミナー風景や部会メンバーの活動の様子など臨場感あふれる編集動画を挿入し、活動内容をより実感いただけるよう工夫しました。

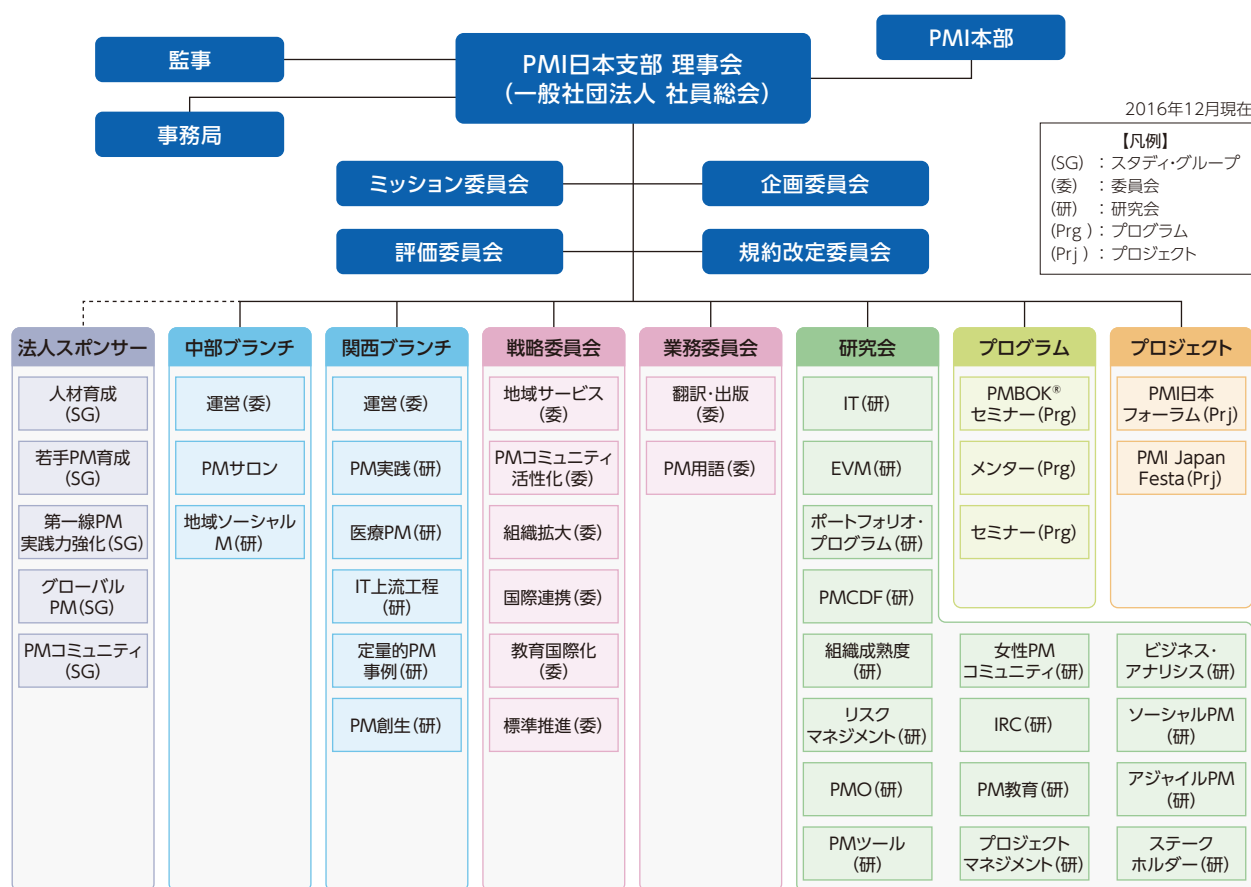
いつも申し上げていることではありますが、当レポートをご覧いただければ、日本支部の広範な活動が、会員の皆さまによる自主的な活動、個人的な貢献・献身にいかん支えられ、展開されているかということに驚かれることと存じます。その活動の枢要をなす部会活動は、会員の皆さまにとって研究の場・情報交換の場として、また経験豊富なPM同士の交流の場として、あるいは日頃の研究成果の投げかけや疑問解消の場としてお役に立つものと信じております。

引き続き、会員の皆さまには、積極的に活動にご参加いただきますよう、また会員登録をいただいていない方々には、ぜひ入会をご検討いただきますよう、よろしくお願いいたします。



PMI 日本支部 会長
奥澤 薫

組織構成



ミッション委員会

ミッション委員会の主な役割は、中期計画を策定し理事会に上程することおよび、各種の支部活動が支部ミッションに則しているかモニタリングし必要に応じて是正処置を理事会に提案することです。

2016年度は、前年から引き続き機構改革を進め、標準推進委員会、教育国際化委員会を発足させました。そして、各委員会等の協力を得て、次期中期（2017-2019年）計画を策定し、11月に理事会承認を得ました。

企画委員会

企画委員会は日本支部の施策を円滑に遂行すべく、委員会、研究会、プログラムおよびプロジェクトの運営状況を把握し、必要な調整を行います。また、各部会の計画に対する実績を評価し、計画実現のための課題を把握し、必要な対応策を理事会に進言します。

2016年度は上記目的の通常活動に加え、特にミッション委員会と連携し、ガバナンス強化のために企画委員会の機能を見直し、2017年度から戦略運営委員会として活動できるよう運営内容、方法、規定の検討を行いました。

規約改定委員会

規約改定委員会は、PMI日本支部の諸規定の起案・改定・所管案策定を行い理事会に承認を求める機関です。また、部会・委員会が起案・改定した諸規定の整合性を担保すべく、部会・委員会と協議後に理事会に付議し承認を得ます。2016年度は、機構改革に伴う諸規定の見直しや、協賛・後援などの新規定を策定しました。

評価委員会

評価委員会は、事務局長を含む事務局職員の給与・賞与について、事務局長の提案を受けて、同様な非営利団体の状況、日本支部の財務状況、職員間のバランス・貢献状況などを勘案して理事会に提案します。また、会員・部会表彰の選考を行い、理事会に提案します。

監事

監事は、支部会員の負託を受けた独立機関として理事・事務局の職務執行を監査することにより、さまざまなステークホルダーの利害に配慮しつつPMI日本支部の健全で持続的な事業と目的達成を担保します。2016年度は、定期的な内部監査の実施と、2015年度決算の監査を行いました。

2016年のトピックス

日本フォーラム 2016

日 程 7月9日(土)、10日(日)
場 所 学術総合センター(一橋記念講堂)
テーマ 「CHANGE & INNOVATIONの時代に何をなすべきか」
セッション 63セッションを実施(基調講演のみ記載)
基調講演 情報サービス産業振興会会長 横塚 裕志氏
(株)プロシード 代表取締役 西野 弘氏
PMI 本部理事 Wagner Maxsen 氏



一般、会員、企業エグゼクティブ、企業管理者に対しプロジェクトマネジメントの最新動向、事例およびPMI日本支部の活動を広く知っていただくため、プロジェクトマネジメントの幅広い普及活動のひとつとして、私どもの年間最大の啓発活動である「PMI日本フォーラム」を、2016年は「CHANGE & INNOVATIONの時代に何をなすべきか」をテーマに、7月9日(土)、10日(日)の両日、東京都千代田区学術総合センターにおいて開催しました。

この数年は猛暑の盛りでの開催が定着していますが、受け付け開始直後から多くの皆さまからお申し込みをいただき、延べ1,400名を超える方々に参加を得て盛況裡に閉幕しました。

例年どおり北東アジア各国や米国からの参加者がおいになることを踏まえ、大会場(一橋記念講堂)での基調・招待講演については全て日英同時通訳付きとしま



した。テーマにそって、情報サービス産業振興会会長横塚裕志氏による「デジタル時代は破壊とデザイン」、(株)プロシード 代表取締役 西野 弘氏による「デジタルビジネスイノベーションセンター構想」と題した基調講演をはじめ13人の国内外の幅広い分野の識者から、

基調・招待講演で ご登壇いただいた方々

① デジタル時代は破壊とデザイン		⑦ 多様性とイノベーション ～IT時代のマーケティングを模索する	
横塚 裕志 氏	一般社団法人 情報サービス産業協会 会長	坪井 純子 氏	キリン株式会社 執行役員 CSV本部ブランド戦略部長
② デジタルビジネスイノベーションセンター構想		⑧ リコー環境事業開発センターの概要と環境ビジネス創出	
西野 弘 氏	(株)プロシード 代表取締役 DBCI設立準備委員会委員、事業企画、海外連携担当	除村 健俊 氏	株式会社リコー BS事業本部 ビジネス開発センター所長
③ タレントマネジメント・戦略的な必須事項		⑨ IBM Watsonとコグニティブ・コンピューティング	
Wagner Maxsen 氏	PMI 本部 理事	武田 浩一 氏	日本アイ・ビー・エム株式会社 東京基礎研究所 技術理事
④ コンサルティング・エンジニアの歩みと今後に向けて		⑩ 未来に向けた医療ITの構築	
廣谷 彰彦 氏	パシフィックコンサルタンツグループ(株) 顧問	白鳥 義宗 氏	名古屋大学医学部附属病院 病院長補佐・メディカルITセンター長・病院教授
⑤ 宇宙ステーション補給機「こうのとり」(HTV) 量産宇宙機のプロジェクトマネジメント		⑪ あべのハルカスプロジェクト ～検討開始から完成まで、その先に目指すもの～	
桐谷 浩太郎 氏	三菱電機株式会社 鎌倉製作所 宇宙システム第一部 HTV量産プロジェクトマネージャ	中之坊 健介 氏	近鉄不動産株式会社 執行役員 アセット事業本部 ハルカス運営部 運営部長
⑥ NTT DATAの世界への挑戦		⑫ イノベーションを起こせる人と組織とは？	
西畑 一宏 氏	株式会社NTTデータ 取締役常務執行役員	前野 隆司 氏	慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科委員長・教授
		⑬ 科学技術立国を施設設計から支える(ノーベル賞受賞のアシスト)	
		門田 睦雄 氏	株式会社 日建設計 設計長

さまざまな外的環境の変化が急激に起きている現代で、経済的成果をとめない社会に役に立つ新しい価値を生み出すためにどうすればいいのか、それぞれの立場で示唆に富む講演をいただきました。

アカデミック・トラックでは、各大学のPM教育の実態、大学における教育プログラム、産学連携、PM教育の裾野拡大などをテーマに行われた発表をはじめ、「PM教育の必要性とその導入について」と題した120分のパネルディスカッションを含めた10のセッションでは、今年も各教育機関が抱える課題について相互に活発な議論が飛び交いました。また、当プログラムの関心は年ごとに増え、内容的にも高い評価を得ることが出来ました。



各テーマ別トラックでは、PMI日本支部各部会、法人スポンサー・スタディグループから日頃の研究成果の

発表の場として、PMIがグローバルに推進しているPMBOK®ガイド、ポートフォリオ・プログラムマネジメント、リスク・マネジメント、組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル、プロジェクト・マネジャー・コンピテンシー開発体系などに関連したセッションが実施されました。



リモート会場への同時中継については、昨年に引き続き大阪市北区の梅田会場で実施したほか、新たに名古屋市昭和区の名古屋大学医学部附属病院基礎研究棟にもリモート会場を設け、基調招待講演を聴講いただけるコースを提供し、各会場とも多くの参加者で盛り上がりました。



名古屋会場(名古屋大学医学部附属病院 基礎研究棟)



大阪会場(梅田センタービル)



フォーラム2016ボランティア 案浦 浩二

COLUMN

私はPMI日本フォーラムのボランティアを担当して4年目になります。LinuxCon, Scrum Gathering, Neo4j等の多くのコミュニティに参加していますが、それぞれ特色を感じます。2016年の日本フォーラムでは前年と違い担当が一つの会場に固定されていたのでかなり動き易かったです。

ボランティアの傍らで、ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会による震災復興・社会的課題へのPMBOK®適用事例紹介があり興味深く聴くこともできました。大きなイベントの運営ボランティアをしながら講演も聴講できるのはとても嬉しいことです。皆さんもどうぞ参加されてみればいかがでしょう。

2016年のトピックス

Japan Festa 2016

日 程 2016年11月5日(土)、6日(日)

場 所 慶應義塾大学日吉キャンパス協生館藤原洋記念ホール

テーマ Think outside the box

～ 困難を打開できるプロジェクト・マネジャーに ～



2016年11月5日(土)、6日(日)の2日間にわたり、延べ700人近い参加者を得て、慶應義塾大学日吉キャンパス協生館藤原洋記念ホールにて、PMI Japan Festa 2016を開催しました。

Festaの基本コンセプトは「現場PMの、現場PMによる、現場PMのためのFesta(祭典)」です。PMI日本支部の部会活動のひとつであるセミナープログラムのボランティア・スタッフが、現役プロジェクト・マネジャーの視点で企画・運営のすべてを担っています。



講演の様子

2016年のテーマは「Think outside the box ～ 困難を打開できるプロジェクト・マネジャーに ～」。固定概念や既存の枠組みにとらわれず、自ら臨機応変に行動し

困難な状況に挑戦されている方々を講師としてお招きしました。



Festaの特長は、通常のプロジェクトマネジメント系のセミナーではカバーされていない、より広範で重要なエリアの最新情報を提供することです。これからプロジェクトマネジメントを学ぼうという方にはリアルな現場感覚を、ベテランの方には視点を変えたアプローチによる新たな発見が得られるよう、講演プログラムを企画しました。

ご提供した計9.0PDUのタレントトライアングルも Leadership(3.5PDU) と Strategic & Business Management(5.5PDU) に特化することで、Festaらしさを特徴づけています。

8講演の登壇者とテーマ

【講演 1】お茶一杯から始まった“はとバス”の経営改革 ～ 私の実践的企業経営論 ～

宮端 清次 氏 (株) はとバス 元代表取締役社長

【講演 2】遠くに見るのは常に光 ～ クラフト蒸留所の新たな時代を創りだせ! ～

肥土 伊知郎 氏 (株) ベンチャーウイスキー 取締役社長

【講演 3】調達から考えるサプライチェーン経営戦略

垣見 祐二 氏 (株) JERA 代表取締役社長

【講演 4】パネルディスカッション「グローバル・プロジェクトを斬る」

喜多羅 滋夫 氏 日清食品ホールディングス 執行役員CIO

当麻 哲哉 氏 慶應義塾大学大学院 教授

小田 めぐみ 氏 学校法人国際学園 国際短期大学 専任講師

【講演 5】新興国でいかにして戦う集団を作ったか?!

～ どんな本にも載ってない実験をお伝えします ～

渡辺 和喜 氏 ユナイテッド・リグロース (株) 取締役COO

【講演 6】食卓からおいしく資源保護を ～ 完全養殖本まぐろ全国供給プロジェクト ～

松本 金蔵 氏 イオンリテール (株) 食品商品企画本部 水産企画部長

【講演 7】ここには、「なにもない」があります ～ ローカル鉄道需要の創造 ～

鳥塚 亮 氏 いすみ鉄道 (株) 代表取締役社長

【講演 8】レースの世界、ロボットの世界

新井 康久 氏 (株) 本田技術研究所 主席顧問

講演は、経営危機にあった会社の社員意識改革によるV字回復、風前の灯火状態にあったウイスキー蒸留所のブランド化による事業創生、アジア新興国における青年実業家による語学事業の立ち上げ・展開、公募社長による廃線寸前のローカル鉄道の復活など、困難な状況に立ち向かい成功を成し遂げた先駆者の方々の貴重なお話しを中心に活気のある二日間でした。

さらに、これら通常講演に加えて今年にはFestaとして3人のパネラーによる初のパネルディスカッションを企画し、受講者の皆さまにも質問を投げかけ双方向性を持たせました。

また、講演者に対する事前インタビューを実施し、当該動画の撮影とホームページ上での公開も初の試みとして実施しました。

週末の休日をつぶして講師のもとへお邪魔してのインタビューは、時間的・物理的には厳しいものでしたが、これにより講師のお考え、人となりをお聴きの皆さま方に事前に知っていただくことが出来ました。

PMI Japan Festa 2016 予告編 動画【鳥塚亮 氏】



PMI Japan Festa 2016 予告編 動画【肥土伊知郎 氏】



多くの方々が来場くださった際に休憩していただく、昼食を摂っていただくりするスペースを提供しています。前方スクリーンには、講師の方々のインタビュー動画を放映しています。



1日目の夜は、講演会場と同じ日吉キャンパス内にあるファカルティラウンジで交流会を開催しました。Festaでは交流会も重要なプログラムのひとつと位置づけ、さまざまな業界・業種の方々と人脈を作る機会としてご活用いただいています。

受講者、講師の方々、PMI 日本支部理事、ボランティア・スタッフを合わせて約80名の盛況な交流会となりました。講師の(株)ベンチャーウイスキー肥土氏が製

造されているウイスキーをご提供し、肥土様が講演で語られた幾多の困難を乗り越えられて得られた成果を実際に体験いただきました。

受講完了報告(アンケート)の結果からは、交流会について100%の方から「満足」と回答いただいています。



本来の多忙な業務をこなしながらのボランティア・スタッフによって進められる本イベントの企画・運営は、一年がかりの大プロジェクトです。二日間であらゆる延べ700人の方々に満足な結果をお持ち帰りいただくべく、講師選定には充分な時間をかけるとともに、運営方法にも改良・工夫を凝らして一丸となって進めています。



主要成果

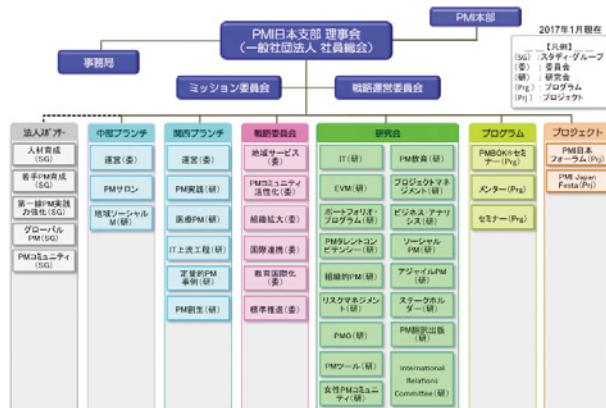
支部のビジョン、戦略を実現するための改革

日本支部は2014年から機構改革に着手しています。PMI本部の活動領域の拡大や、プロジェクトマネジメントを取り巻く社会状況などの外部環境の変化、会員数の増大や支部活動の拡大など内部的要因を勘案し、支部組織や運営形態の改革に踏み出しました。

そこでは以下のことを実現できる機構・仕組みを目指しています。

- ・戦略的なテーマに対して理事会が情報収集と検討に基づいて明確な方針を打ち出す
- ・支部方針に基づいて事務局等を統制して施策実行に必要なリソースを割り当てる
- ・事務局が実施する業務と、会員ボランティアに積極的に参加していただく活動や業務を整理し、達成感が得られる活動に多くの会員に参加していただく
- ・本部の資産や情報を効果的な形で会員に提供し、本部や近隣支部との良好な関係を利用して、支部活動をさらに活性化

このような考え方で部会、委員会の改組、新設を行った結果2017年1月時点では図のような体制になっています。



支部として方針、戦略を検討し、その実現を推進する機関として、戦略委員会として6つを置き、複数の理事を担当として割り当てました。さらに旧企画委員会を発展的改組した戦略運営委員会を設置して、支部施策の円滑な遂行に向けて戦略委員会間の調整を図ることにしました。例えば、PMコミュニティ活性化委員会は、研究会等の部会活動に対する会員の積極的な参加を推進するための施策を打ち出し、その一環として部会間の情報交換を促進する場として、部会リーダー交流会を定期開催することにしました。標準推進委員会、国際連携委員会、教育国際化委員会、地域サービス委員会は、PMI本部から提供される標準類やさまざまなリソース、

本部/近隣支部との関係を活かして、会員サービスの向上と支部活動の活性化を推進して参ります。

LM2016

2016年9月10日(土)と11日(日)の2日間、東京都調布市にあるNTT中央研修センターを会場に、PMI日本支部の各部会(委員会、研究会)のリーダーやアクティブメンバー64名を一堂に会した「PMI日本支部リーダーシップミーティングLM2016」を開催しました。

この会議は、PMコミュニティ活性化委員会(委員長 当麻哲哉理事)が中心となってボランティア・チーム「LM2016実行委員会」(委員長 伊熊昭等氏)を結成して企画、運営されたものです。

一日目の会議では、ゲストのPMIアジア・パシフィック SoHyun Kang マネジャーが、「PMI本部の方針説明、PMI日本支部の市場調査結果報告」について英語でわかりやすいスピーチを行うなど、今後のPMI本部や日本支部の方向性、施策などの中期計画案を支部の各部会リーダーに共有しました。

その後、部会活動のさらなる活性化を狙いとし、思考能力開発をテーマに、リーダーの人材育成を兼ねた「システム×デザイン思考による“部会活動の悩み解決ワークショップ”」を開催しました。講師は理事の当麻哲哉

COLUMN

関西ランチ PM創生研究会 大橋 知子



2016年9月リーダーシップミーティングLM2016に初めて参加しました。

当初、私のような人間が参加してよいか、不安もありましたが、当麻先生(慶應大SDM)の明るく楽しいアイスブレイクから不安は一瞬にして期待に変わりました。さすがに参加メンバーは皆さん強力で、意見交換も活発で、元々右脳人間の私には、強い刺激を受け、大変得難い経験が宝物となりました。

今回、システム×デザイン思考の考え方を通して、自ら問題を解決すること、こうした有益な楽しさを全国の皆さんに広めていくことも私のミッションのような気もしてきました。

この機会に出逢えたことに感謝しております。

教授(慶應義塾大学SDM)です。

ワークショップでは、参加メンバーを6グループに分け、悩み共有の「ブレインストーミング」を



各グループに分かれてプレスト

を行い、その悩みを「因果関係ループ図」を使って整理し、悩み解消のためのレバレッジポイントを見つけました。各チームはその悩みを解決するために、魅力的な「1ページ広告」のポスターを作成した後、議論するメンバーを投票により募集しました。

2日目は、投票に基づきグループを再編成し、悩み解決アイデアを出す「ブレインストーミング」、分類して整理する「親和図法」、ベスト・コンセプト一つに絞る「ピューコンセプトセクション」、価値を確認する「バリュエグラフ」を順に作成しました。

最後のプレゼンテーションは、各グループが悩み解決策をストーリーにして、即興で「寸劇」を演じる形式で行われました。昼



寸劇によるプレゼン

休みを惜まず「寸劇」の練習に励む熱心なグループもあり、見事なストーリー性と演技力で、どのチームも会場を沸かせました。

質疑応答の議論も活発に行われ、日本支部の歴史に輝かしく残る素晴らしい会議となりました。

この思考能力開発が、翌年度の各部会の活動計画に反映されて、コミュニティが活性化していくことを期待しています。



合宿参加者 集合写真

海外コンGRES

PMI本部はGlobal Congressを春にEMEAで、秋に北米で開催します。また、Asia Pacificでは隔年でLIMが開催されます。

日本はAsia Pacificの中の北東アジア地区(Region9 日本、香港、台湾、韓国、モンゴルの5支部で構成)に所属しています。Region9の各支部で開催される年次イベントへの相互参加・発表等を通して、各支部活動やプロジェクトマネジメントについての情報交換等を実施しています。またLIMにおいては、PMI本部の最新の施策説明を受けたり、ボランティア・ワークに関するトレーニングを受けたりしています。

日本支部では、この活動を通して得られた最新のGlobal動向を、支部のWEBサイトや、ニュースレター等を通じて、支部会員の皆様に展開させていただいています。

2016年度 海外コンGRES開催地と出張理事

会議名	日時	開催地	出張理事
PMI Leadership Institute Meeting — EMEA	5月6日 ～8日	バルセロナ (スペイン)	片江
PMI South Korea Chapter Conference	5月13日	ソウル (韓国)	鈴木、中嶋
PMI Leadership Institute Meeting — North America	9月22日 ～24日	サンディエゴ (アメリカ)	奥澤、片江、井上、森田
PMI Global Congress — North America	9月25日 ～27日	サンディエゴ (アメリカ)	井上、森田、鈴木、杉村
PMI Mongolia International Conference, Region 9 Meeting	10月7日 ～9日	ウランバートル (モンゴル)	奥澤、片江、除村、麻生、浦田
PMI China Congress	10月22日 ～23日	北京 (中国)	奥澤、片江、麻生
PMI Hong Kong Congress	11月1日	香港	奥澤、除村、中嶋
PMI Taiwan International Congress 2016	11月19日 ～20日	台北 (台湾)	端山

COLUMN



PMコミュニティ活性化担当理事 麻生 重樹

理事としてAP-LIM (Asia Pacific Leader Institute Meeting) や北東アジア地区のコンGRESに参加、昨年秋には中国コンGRESで約45分間プレゼンしました。参加して強く感じることは、PMの世界に国境は無くお互い非常にオープンであること、商流や文化が違って根本にあるPMの悩みや課題は同じだということ、そして何より強く感じるのは言語の壁を越えて非常に積極的で、疑問に思ったことは納得するまで質問攻めにするという3点です。私も何度か経験し、タイムリーに的確に対応するのが難しいのは、英語が苦手だからと自分を納得させていたのですが、冷静に考えると日本語でも応えにくい、つまり普段から頭を鍛えていないことに気付かされます。

もっと、鍛えないと老化する一方ですね。

主要成果

PMI 日本支部・インドネシア支部 共催セミナー

2016年9月24日(土)、インドネシアの首都ジャカルタで、インドネシア支部との初の共催セミナーを実施しました。

開催場所は、クニンガン・シティ地区にあるMultimatics社の会議室で、当日は一部の方の入場をお断りするほど盛況で、最終的には60名の参加を得ました。

【当日のプログラム】

開会挨拶：モハメド・イクサン氏

(R15 メンター、元インドネシア支部)

ビデオメッセージ：奥澤薫氏(日本支部会長)

〈日本側講演〉

- ① Introduction of Jakarta MRT project : 東洋エンジニアリング 永松治夫氏、須田和典氏
- ② Recovery activities for a large scale natural disaster by social project management : IRC 坂本健太郎氏
- ③ Project Management for Large Scale ODA Loan Projects in Indonesia : 神戸女子大学 貝増匡俊氏

〈インドネシア側講演〉

- ④ Project Management on ICE (Integrity, Creativity & Excellence) : Noerrachman Saleh 氏
- ⑤ EPC Contract Management : Corina Munthe 氏
- ⑥ Moving Team Member to a Higher Level of Engagement in the Project : Aji Prasajo Reksoprodjo

〈パネルディスカッション〉

司会：スペカル・ラジーブ氏(日本支部 IRC メンバー)
パネラー：インドネシア支部からアリスマン会長、コリーナ氏、日本側から貝増氏、IRC 副代表 杉谷氏
テーマ：日本とインドネシアの共同プロジェクトの重要性と成功のための秘訣 他

今回のイベントを通して、双方におけるPM事情の理解が深まりました。また、組織的な協力活動を通じて長期的友好関係の礎を築くことができました。

重要なことは、今後も活動を継続し、普遍的なテーマを掲げてより多くの関心を集めるイベントとして成長させることと考えています。



インドネシア支部共催セミナー

情報サービス産業協会 PMコミュニティへの 支援

2016年に一般社団法人情報サービス産業協会(略称「JISA」)横塚会長、PMI日本支部片江副会長が双方主催行事で講演を行ったことを機に意見が一致し、情報サービス企業のプロジェクトマネジメント成熟度把握と向上に関する活動を通じ企業の競争力強化に資することを目的に「プロジェクトマネジメント・コミュニティ」を立ち上げました。

PMI日本支部法人スポンサー企業5社を含め10社から毎回10名の参加者を得て、7月末以降計4回の議論を重ねています。

2016年度は、①PMO部門の役割、②不採算プロジェクト撲滅にむけた各社のプロジェクトマネジメントの取り組み共有、③各社のプロジェクト・マネジャー育成事例を共有しました。

PMI日本支部からは下記2講演を行い議論の素材を提供しています。

9月7日：第2回 PMO研究会小山恵一郎氏「PMO部門が果たすべき機能・役割」

10月18日：第3回 理事高橋正憲氏「PMOアセスメント結果とこれからのPMO」

なお本コミュニティ活動はJISAホームページでも告知・報告されています。



新会員オリエンテーション

新規入会者にPMI日本支部の活動を知っていただき、積極的に活動していただくことを目的に、2016年12月1日、12月12日の2回に分けて新入会オリエンテーションを開催しました。過去1年以内に新規入会された会員の内、計49名が参加されました。

当日は、①PMIの各種標準、タレント・トライアングルなど、②PMI日本支部の会員特典、主催セミナーなど、③PMI日本支部の部会の構成、活動内容、参加方法などを紹介した後、Q&A、交流会を行いました。

多様な部会があり、毎晩、多くの会員が時間を工面してPMI日本支部の会議室に集まり、さまざまなテーマについて議論されていることをお伝えできた結果、それらの活動に非常に興味を持ったという意見を多数いただきました。

初めての試みでしたが、日本支部への期待も感じることができ、非常に有意義なオリエンテーションとなりました。

2017年度からは、3カ月に1回のペースで定期開催する予定です。



新人会員オリエンテーション参加者 鴨下 恵一

COLUMN

PMP[®]取得後6年、ついにPMI日本支部に入会しました。

12月12日の新入会オリエンテーションで知ったことは、全てがボランティアで行われていることです。役員の方を始め皆さんのバイタリティには驚かされました。

次に本部から独立した自由度の高い活動を行っていることです。自由度が高いからこそ皆さん能動的に活動されているのだと理解しました。

今回研究会活動について詳しい話は聞けませんでした。自分も有意義な支部生活を過ごせるようにしたいと思います。

PMI 日本支部 2017-2019 中期計画

日本支部では2006年にミッション委員会を設置し、中期(3年)計画の検討を開始しました。2007年11月に最初の中期(2008-2010)計画が決定されました。2016年には、2017年から開始される第4期中期計画を策定しました。

PMI 日本支部の目的は定款および支部規約に明記されています。これを受けた日本支部のミッションは以下の通りであり、次期中期においても変更はありません。

PMI 日本支部のミッション

- プロジェクトマネジメントの適用基盤の整備
 - プロジェクトマネジメントの標準とその活用技術を広める
 - プロフェッショナリズムの醸成とコンピテンシーの向上
- を通してプロジェクトマネジメント実践組織や社会の発展に貢献する。

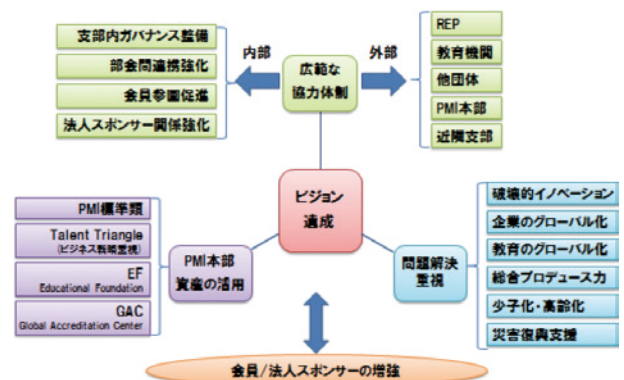
2017年を迎えるにあたり、日本も世界も変革を求められています。政治、経済、技術それぞれに大きな変化が押し寄せ、民間企業も政府機関も変革を迫られています。組織の変革プロジェクトの実効性を高めるには、プロジェクト/プログラム/ポートフォリオのマネジメントが必要になります。経営課題に対する取組みを統合的に管理し、事業目標の達成に向けて組織を動かすために、個々人の努力、成長に頼るだけでなく、世界的に蓄積されている手法、ベストプラクティスを活用しない手はありません。労働時間削減や女性活躍推進などの社会的な課題に対する取組みや、多様性を活かした創造的な活動への挑戦など、PMIとその会員が有する知見の適用領域は拡大を続けています。AI、IoT、ロボットなど、技術的な潮流と産業構造の変化を的確に捉えて、変革をリードする人材には、プロジェクト/プログラム/ポートフォリオのマネジメントの能力が求められます。したがって、日本支部が持てる資源を効果的に機能させ、プロジェクトマネジメントの専門家およびプロジェクトマネジメントに関心を持つ多くの人々に適切に情報を発信し、交流の機会を提供し、その社会的意義と役割を訴求することで、社会の変革と発展に大きく貢献できる機会が開かれています。このような状況を踏まえて2019年末を目指したビジョンを以下の通り決めました。

PMI 日本支部2019ビジョンステートメント

日本支部の活動によって、プロジェクトマネジメント/プログラムマネジメント/ポートフォリオマネジメントの必要性や重要性が広く認識され、企業の事業価値達成の手段として活用されている。

このビジョンを達成するために多面的な活動を展開して参ります。(次図参照)

ビジョンステートメント達成に向けたアプローチ



PMI 本部の標準をはじめ、日本支部が利用できる標準類や情報、資源を活用して、現実世界におけるさまざまな問題解決に貢献できることを訴えていきます。事例や学習機会など多様な情報を広範なステークホルダーに提供します。従来から関係を構築してきた法人スポンサーやアカデミックスポンサーをはじめ、他団体やREPなどとの連携を深め、プロジェクトマネジメントの価値をより多くの人達に理解していただき、適用の機会を拡大するとともに、その効果に関する事例、情報の蓄積を強化・継続します。

日本支部内部においても、研究会や日本フォーラム、Japan Festaなど、会員が参画し、交流する機会をさらに充実して、活発に活動していただける環境を整えます。そのために日本支部内の情報流通や連携を促進する基盤も整備していきます。これらの施策を通じて、会員の価値を高めて、会員と法人スポンサーの加入および継続を促進し、仲間を増やしていきます。

以上のように日本支部を取り巻く環境分析や、これまでの中期計画の内容と実績を踏まえ、日本支部のミッション、ビジョン、戦略について、ミッション委員会で検討を重ね、理事会でも議論し、各委員会、研究会とも意見交換しながら、具体的な施策を検討して最終的に取りまとめた中期計画の概要を以下に示します。

No	施策名	目的	推進主体
【I】 PPPMの普及推進			
1	PPPM普及推進戦略の確立	PPPMに関する内外の動向を調査、把握し、日本におけるニーズを分析して、PMI日本支部の戦略的な取り組みを調整、提起する	理事会
2	PMI標準翻訳	質の高いPMI標準書を邦訳する	標準推進委
3	PMI標準の普及	翻訳されたPMI標準書を普及する	標準推進委
4	海外でのProgram Management, Portfolio Managementの活用事例の紹介	普及の進んでいないProgram Management, Portfolio Managementでの定着	国際連携委
5	ポートフォリオマネジメント、プログラムマネジメントの応用分野の開拓	ポートフォリオマネジメント、プログラムマネジメントの応用について、ノウハウや知見をまとめ、普及の一助とする。	ポートフォリオ/ プログラム研究会
【II】 グローバル化対応			
6	PMIのリソースとグローバルなネットワークを活用したPM教育の普及・グローバル化の推進	教育機関の取り組み課題である能動的人材育成(アクティブ・ラーニングの強化)、世界で活躍できるグローバル人材の育成に貢献する	教育国際化委
7	PMIJのプレゼンス向上	PMIJでの活動(特にIRC)をR9、R15等のカンファレンスで紹介し、グローバルプロジェクトを行う上での基礎知識として現地の方に広める。また、その機会を通しコミュニケーションチャンネルを構築する	IRC
【III】 他団体との連携強化			
8	PMに関係する団体との連携によるPM普及、強化活動	PMを実際に活用するユーザーの団体と連携しPMの普及を図る	企画担当理事
9	イノベーション、IoT、デジタル社会への対応策としてのPMの普及、強化活動	イノベーション、IoT、デジタル社会への対応についても関連団体連携し、実現の推進力としてのPMの実装、活用を推進する	企画担当理事
10	国内外のPM教育に関する情報交流HUB機能の強化	高等教育機関、中等教育機関で、PMの基礎を現場の教育に取り入れることができる教員や教育協力者が増え、PM教育のすそ野を拡大させる。	教育国際化委
11	R.E.P.との関係強化	会員サービスの向上/PMI方針・施策の浸透/市場ニーズの把握/個人会員の増加	REP友の会
【IV】 PM適用分野の拡大			
12	外部表彰	PMI本部表彰制度を活用し、優れたPM実践者/組織を表彰することで、PMI日本支部とPMに対する社会的認知度を向上する	理事会
13	PM教育の必要性・有効性に関する啓発活動の強化	人材育成におけるPM教育の有効性、必要性を社会に広く認知させる	教育国際化委
【V】 首都圏以外での活動拡大			
14	PM活動による地域における価値創出の促進	PM活動を地域社会の充実・活性化につなげるとともに、PM有効性を発展させる	地域サービス委
15	地域におけるPM活動のプロモーション強化と参加しやすい環境づくり	PMコミュニティやブランチ活動の認知度向上および、活動体制の強化につなげる	地域サービス委
【VI】 PMを通じた社会貢献の展開			
16	社会貢献活動の実践を通じたPM手法、資産の充実と普及展開	PMI日本支部として社会貢献活動を行うことによりPMの適用領域を拡大する	ソーシャルPM研究会
【VII】 支部活動基盤の整備			
17	部会リーダー交流会の設定と運営	・部会間での連携強化 ・理事会や戦略委員会への要望や提言の場を提供する	PMコミュニティ活性化委
18	戦略運営委員会の運営確立	PMI日本支部のガバナンス体制向上に向けた委員会改編に伴う体制確立	企画担当理事/ 戦略運営委
19	複数の部会での共同企画の開催	・部会間での連携強化 ・お互いの知見を活用することによる企画の質や効率の向上	PMコミュニティ活性化委
【VIII】 アクティブメンバーへの支援強化			
20	リーダーシップスキル育成	各部会のアクティブメンバーの質の向上	PMコミュニティ活性化委
21	ボランティア・コミュニティの運営手法の体系化	各部会の活発な活動の実現を支援する	PMコミュニティ活性化委
22	日本支部会員に対する価値ある情報の発信	PMI本部、日本支部、部会活動などの会員限定の情報を発信することにより、会員である価値を高め、リテンション率の向上とアクティブメンバーの増加をめざす	PMコミュニティ活性化委
【IX】 サービスの向上			
23	法人スポンサー拡大に向けサービスの更なる向上①	法人ごとのPMIに求める価値の仮説設定による木目細かな施策の展開	組織拡大委
24	法人スポンサー拡大に向けサービスの更なる向上②	法人スポンサー拡大のために追加の特典、施策を検討し展開する	組織拡大委
25	法人スポンサー拡大に向けサービスの更なる向上③	法人スポンサー企業の身近な存在としての認知度向上	組織拡大委
26	新規入会者へのガイダンス	新規入会者のリテンション率向上	組織拡大委
【X】 会員増強			
27	法人スポンサー企業の個人会員増加施策	法人スポンサーの窓口経由で個人にアプローチし、いろいろなベネフィットの違いも提示して個人会員に誘導する	組織拡大委

幅広い分野での拡充と強化

この数年 PMI は、標準書はもとより調査報告や白書も含め、幅広い分野での活発な強化を進めてきました。5年前(2011年末)は基本標準4編、実務標準7編が中心でしたが、それ以降新たに実務ガイド6編、Thought Leadership Series 4編などが続々と出版され、内容もビジネスアナリシス、要求マネジメント、ガバナンス、変革や複雑性のマネジメント(以上、実践ガイド)および、PMO、Talent Management、Portfolio Management、Benefits Realization Management(以上、Thought Leadership Series)など、ビジネスや組織の変革を実践する視点から分野の拡充や強化を進めています。

1 基本標準の展開と改訂準備

現在4編の基本標準に関して、改訂準備が進められています。草案の公開は、2016年には *PMBOK®* ガイド 第6版、続いてプログラムマネジメント標準第4版が、2017年にはポートフォリオマネジメント標準第4版についても(Exposure Draft) 公開されます。今まで OPM3® (Organizational Project Management Maturity Model: 組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル)として親しまれてきた基本標準は、今後 Implementing Organizational Project Management: A Practice Guide (2014年発行)の拡張版となる「Standard for Organizational Project Management (OPM)」へ変更になり、2017年での出版が見込まれています。

PMBOK® ガイド 第6版については、英語版の他10か国語翻訳版が2017年第3四半期に同時出版される予定

です。大きな変更点には、知識マネジメントの追加、アジャイルに関する記述追加、ISO21500準拠を進めた知識エリアの改訂、タレント・トライアングルの考え方と関係しての再構成などがあります。知識マネジメントでは、「暗黙知」と「形式知」を基にした知識創造の考え方を採り入れて、教訓の収集と反映を強化するプロセスを追加しました。アジャイルについては従来から、PMI-ACP®の認定制度の運営、ハンドブックの提供や研修などが進められてきましたが、今後実務ガイドの発行なども予定されており、*PMBOK®* ガイドの改版にあたって、イテレーション開発や反復型の手法適用など、アプローチに関する記述が追加されました。タレント・トライアングルとの関係については、戦略およびビジネス・マネジメントに関する追記や、リーダーシップに関する記述をプロジェクト・マネジャーの役割として集約するなど、追記と従来の記述を3分野に振り分け、タレント・トライアングルがめざすゴールの理解と普及を図るものとなりました。また知識エリアのうち、「ステークホルダー・マネジメント」の用語の一部は、「ステークホルダー・エンゲージメント」へ、「タイム・マネジメント」は、「スケジュール・マネジメント」へと、「人的資源マネジメント」は、ISO21500に準拠して「資源マネジメント」へと、その考え方や内容を明確にするために名称変更されました。他にも同様な理由で、プロセス名の変更や削除、あるいは知識エリア間の移動などが進められています。

全4編の改訂の背景には、激動する企業や社会、それによる期待や要請の変化に応え、組織変革の実践やベネフィットの具現化を重視し、支援しようとする PMI の姿勢があります。

PMI 新標準類の 動向



実務ガイド(Practice Guides)

2 実務標準／実務ガイドの強化

実務標準 (Practice Standards & Frameworks) は、英語版7編(日本語版は4編)を展開中で、プロジェクト・マネジャー・コンピテンシー開発体系 (PMCDF)、リスク・マネジメント、見積り、スケジューリング、アード・バリュー・マネジメント (EVM)、ワーク・ブレイクダウン・ストラクチャー (WBS)、コンフィギュレーション・マネジメントと、内容面ではいずれもプロジェクトマネジメントの基本的要素に関し、標準とフレームワークを提供しています。ちなみに、PMCDFは、従来のプロジェクト・マネジャーの範囲に加え、プログラムマネジメントとポートフォリオマネジメントの観点でのコンピテンシーを含めており、2017年に英語版が出版されました。日本語版については翻訳が完了次第第刊の予定です。

実務ガイド (Practice Guides) は、PMI® 標準を適用する上での支援情報を提供するもので、この5年間に相次いで6編が出版されました(参照別図)。2016年には『Requirements Management: A Practice Guide』、『Governance of Portfolios, Programs, and Projects: A Practice Guide』が発行され、プロジェクト・マネジャーにとって難しさの多い要求のマネジメントやガバナンスについても、実務や実践の視点で補強する知見が提供されました。これらは、PMI タレント・トライアングルではテクニカルな分野として位置づけられており、プロジェクト・マネジャーが専門能力を発揮し成果を上げていくためにも、重要な参考情報になります。

日本支部では、2015年に出版された『Business Analysis for Practitioners: A Practice Guide』(実務者

のためのビジネスアナリシス:実務ガイド)を翻訳し、2017年1月に出版しました。

3 調査報告／白書の拡充

Thought Leadership Series は2013年にPMOをテーマに開始され、2014年にはTalent Management、2015年にはPortfolio Managementと続き、2016年にはBRM (Benefits Realization Management) を出版し、BRM フレームワーク (Benefits Realization Management Framework) とともに、プレスリリースを含む大々的な発表がおこなわれました。

Pulse of the Profession® についても、2016年は第8回報告(調査協力:プロジェクト・マネジャー職2,428名、シニア・エグゼクティブ192名、PMO 責任者282名)に続き3編の詳細報告を発行し、いずれもBRMの裏づけとなる調査結果を提供しています。『Identify benefits to drive business results』(調査協力:プロジェクト・マネジャー職1,189名)『Focus on benefits during project execution』(プロジェクト・マネジャー職717名)『Sustain benefits to optimize business value』(プロジェクト・マネジャー職1,112名)の3編は、BRMの各段階である、ベネフィットの特定(Identify)、実行(Execute)、維持(Sustain)に呼応しており、調査成果としての結論、知見、勧告、および事例などを各段階のあるべき姿や調査データとともに論じています。

なお、Pulse of the Profession® は、2013年以降、ボランティアの翻訳・監訳活動により、PMI 日本支部ホームページにおいて日本語版を提供しています。

Benefits Realization Managementの発表



- ・ 2016年11月発表、BRM により“永続的な価値を創造” (Creating lasting value)



ベネフィットをもたらす事がプロジェクトの目的であり価値

Connecting Business Strategy and Project Management
by The Boston Consulting Group

Strengthening Benefits Awareness in the C-Suite
by The Economist Intelligence Unit



Establishing Benefits Ownership and Accountability
by PMI
Benefits Realization Management Framework
by PMI

ビジネスや社会の要請を見据えた PMI® の取り組み

PMI は2016年も依然として世界屈指の規模を有し、全世界207カ国283支部、会員数は47万人を超え、PMP®などの認定者総数は80万人を突破しました。戦略や施策の面でも、PMIAA (Program Management Improvement and Accountability Act: プログラムマネジメントの改善と説明責任に関する決議) の米国連邦政府での立法化や、BRM (Benefits Realization Management: ベネフィット実現のためのマネジメント) の発表など、PPPM (Project, Program, and Portfolio Management: プロジェクトマネジメント、プログラムマネジメント、およびポートフォリオマネジメント) を新たな段階へと導く取り組みが続々と推進されています。

PMI による全世界でのプロジェクトマネジメントの動向調査である Pulse of the Profession® も、2006年から毎年実施され、10周年を迎えました。第9回報告書(対象: プロジェクト・マネジャー職3,234名、シニア・エグゼクティブ200名、PMO 責任者510名)では、プロジェクトの成功率を高める要素やプロジェクトマネジメントの成熟度について分析しています。プロジェクトの成功についての差異を生む要素として、プロジェクトマネジメント能力の育成やPMO 設置への取り組み、エグゼクティブ・スポンサーの積極的関与、およびベネフィットのマネジメントやアジャイル手法への取り組みに言及し、さらに71%もの組織がプロジェクトマネジメントにおけるアジャイル手法を以前より多く採用している、などの調査結果も述べています。また、「プロジェクトの成功の定義は変化しており、伝統的な管理指標(Time/Scope/Cost)だけではもはや不十分で、ベネフィットを具現化する能力や、その成熟度が問われている。」と結論づけ、今後のビジネスや社会の変化を踏まえた、プロジェクトマネジメントのあり方やその変化について広く世に示しました。

1 プログラムマネジメントの改善と説明責任に関する立法化

PMIAA は、PMI が強力に支持し推進してきた法案であり、2016年12月に米国上院にて全会一致で可決され、オバマ大統領による署名を経て法律として制定されました。PMI の Pulse of the Profession® では、「政府の戦略的取り組みのうち目標や意図に合致したものは64%に過ぎず、10億ドルあたり1億100万ドルのムダが生じている。」との調査結果を明らかにしています。当法律の施行は、連邦政府におけるプログラムマネジメントの実行で得られる成果がより高まるよう、税の有効活用観点と併せて期待されています。

PMIAA では具体的な改革として次の4点を挙げています。①正式な職務群やキャリアパスの創出 ②標準に基づいたプログラムマネジメント方針の策定 ③上級職によるスポンサーシップや連携の強化 ④成功したアプローチや知見の共有。これらの活動によって、連邦政府のプログラムマネジメントに関するポリシー(政策や方針)を刷新していくとしています。連邦政府の全域で改善と強化が図られることから、標準に基づくプロジェクトマネジメントとプログラムマネジメントの実践や、認定され経験豊富なプロジェクトマネジメント・プロフェッショナルへの期待も、さらに高まる事が予想されます。併せてスポンサーや上級職などのプロジェクトマネジメントやプログラムマネジメントへの認識の変化、それによる職務や職制の変更、そして関連する業者や団体への各種波及効果なども期待されます。

米国での立法化は、プロジェクトマネジメントおよびプログラムマネジメントの重要性を改めて全世界に発信する意味合いにもなり、一連の標準やフレームワークの重要性および適用の効果についても、公的に認識され裏付けられたものとなりました。

2 ベネフィットのマネジメントとその具現化の重視

2016年11月にはBRMのフレームワークおよび一連の調査結果が発表されました。「ベネフィット」は、「成果価値」とも表現されたことがありますが、日常的で共通認識のある端的な和訳がなく、プログラムマネジメント標準でも、「ベネフィットは、組織に有用性をもたらす活動や行動の成果である。」と解説されてきました。組織にベネフィットをもたらす事がプロジェクトの究極の目的であり、プロジェクトの本質を再認識したうえで実践することが大切なことは言うまでもありません。BRMは、PPPMで語られてきた知識体系や知見を目指すゴールの視点から総合的にまとめあげる存在となっています。

BRMのフレームワークでは、3つの段階、①ベネフィットの特定(Identify Benefits)、②ベネフィットの実行(Execute Benefits)、③ベネフィットの維持(Sustain Benefits)が定義され、各段階における課題や実践例が簡潔にまとめられています。また、これら3つを囲むループをアイコンとして継続的な実現を強調し、特定―実行―維持を繰り返すことで、効果的かつ永続的にベネフィットの具現化を進められるとしています。

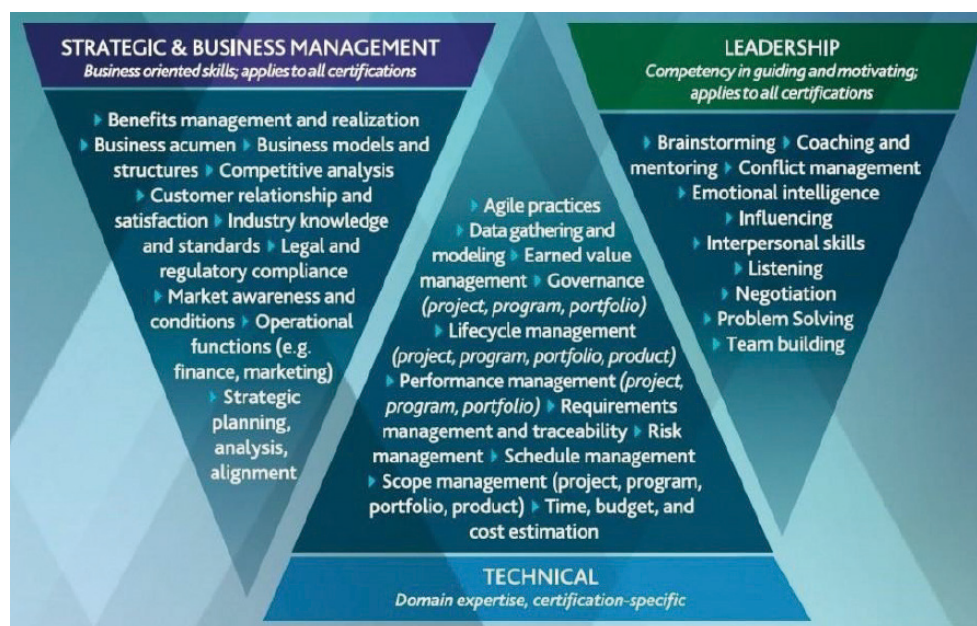
標準的かつ汎用的なフレームワークに照らしてマネジメントのあり方を見直し整理することは、共通性や押

さえどころを見出すことにつながり、成功の再現や繰り返しの役に立ちます。日本では、ものづくり視点でのプロジェクトマネジメントや、品質やプロセス視点での標準化やフレームワーク活用では、それらの理解、適用、および実践が進むものの、プログラムやポートフォリオなど、組織をマネジメントする視点での標準やフレームワークの活用は十分とは言えない状況が続いてきました。経験主義に寄り過ぎることなく、標準やフレームワークを活用してベネフィットを継続的に具現化していくことが、ビジネスの成功に不可欠となります。

PMI タレント・トライアングルが示す 3 新たなリーダー像

2016年より PMI タレント・トライアングルが本格的に適用され、PMP® 資格の更新等に必要となる PDU (プロフェッショナル・デベロップメント・ユニット) も3つの分野、① Technical Project Management (技術的なプロジェクトマネジメント)、② Strategic and Business

Management (戦略およびビジネスのマネジメント)、③ Leadership (リーダーシップ)、に分けての運営が進んでいます。PMI は、プロジェクト・マネジャーの役割として、この3分野の具体的内容を下図で示していますが、いずれの項目も広範かつ奥深く、QCD の管理者とみなされがちな従来の PM 像とは異なる、多様で幅広い高い専門性が期待されています。タレント・トライアングルは単なる PDU 取得の制度改正などではなく、マネジャーやリーダーに求められる役割の概念として捉えるべきです。この概念では、マネジャーやリーダーに期待される能力や資質が変化していること、その変化を自分自身の課題として捉え、研鑽や挑戦を続ける重要性などを示唆しています。組織や企業は、ビジネスや社会が変化する中でリーダーシップ能力が高く企業戦略やビジネスにおいてもマネジメント力を発揮できる人材を渴望しており、新たなリーダー像へのチャレンジが求められています。したがって、それを支える PMI の施策やその価値について理解を深める必要があります。



Strategic and Business Management

- ▶ ベネフィットのマネジメントと具現化 (Benefits Realization Management)
- ▶ ビジネス感覚 (洞察力)
- ▶ ビジネス・モデリング、構造化
- ▶ 市場競合分析
- ▶ 顧客との関係作り、顧客満足度
- ▶ 業界固有の知識、標準体系
- ▶ 法律および法規制の遵守
- ▶ マーケットの認知および状況
- ▶ 企業運営の機能群 (財務、マーケティングなど)
- ▶ 企業戦略の計画、分析、提携

Technical

- ▶ Agile 技法
- ▶ データ収集とデータモデリング
- ▶ EVM
- ▶ ガバナンス (Project, Program, Portfolio)
- ▶ ライフサイクル・マネジメント (Project, Program, Portfolio, Product)
- ▶ パフォーマンス・マネジメント (Project, Program, Portfolio)
- ▶ 要求マネジメントとトレーサビリティ
- ▶ リスク・マネジメント
- ▶ スケジュール・マネジメント
- ▶ スコープ・マネジメント (Project, Program, Portfolio, Product)
- ▶ タイム、予算およびコストの見積

Leadership

- ▶ ブ레인・ストーミング
- ▶ コーチングおよびメンタリング
- ▶ コンフリクト・マネジメント
- ▶ EQ (エモーショナル・インテリジェンス)
- ▶ 影響力
- ▶ 対人関係能力
- ▶ 傾聴
- ▶ 交渉力
- ▶ 問題解決
- ▶ チーム・ビルディング

PMI タレント・トライアングル

個人会員制度

▶ 会員制度のメリット

プロジェクトマネジメントに関して体系化されたアプローチと方法論・事例に関する知識を深く理解するために、PMP®の取得・維持は極めて有効です。日本支部のメンバーになることで、そのための強力な支援が受けられます。

◆プロジェクトマネジメント実務者の方には

他社プロジェクト・マネジャーとの交流、PMI 関連資格保持・更新のための情報収集のほか、ベストプラクティスやプロジェクトマネジメントの近況・見通し、PMI 関連の研究状況の把握などにより、プロジェクトマネジメントに関する自己啓発につながり、実務能力を向上させる機会となります。

◆経営者の方には

プロジェクト・マネジャーの育成、ベストプラクティスの研究結果や方法論の実践により、経営や組織の能力を高める機会となります。

◆一般の方には

今話題のあらゆる分野のプロジェクトマネジメントについて、専門的な知識・情報取得のチャンスとなります。

▶ 日本支部会員の特典

① セミナー受講費の割引

日本支部主催のフォーラム、Festa、月例セミナー、アジャイル関連セミナーなど各種セミナー（下表および次ページの図を参照）に割引価格で参加いただけます。また、PDU、PMP® 受験研修時間、ITC 実践力ポイントなどの受講証明書を発行します（地域セミナーなど一部に発行対象外のものもあります）。

規 模	セミナー名称	PDU	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期
大規模 (数百人)	日本フォーラム (2日間)	12			★	
	Japan Festa (2日間)	9~11				★
中規模 (100人)	月例セミナー (2時間/回)	2	★	★	★	★
	各種地域セミナー (3~4時間/回)	3~4			★	★
小規模 (10~30人)	PMBOK® セミナー (2日間)	14	適 宜			
	アジャイルPM、デザイン思考、 ソーシャルPM、PMO、Risk などW/S (1日)	6~7	適 宜			

② 各種委員会、研究会などへの参加

各種の委員会、研究会等に参加することで、プロジェクトマネジメントに関わる技術研鑽、異業種の方々と情報共有・交流 (skypeも活用) しながら PDU も取得できます。また、これらの活動の成果は毎年夏に開催するフォーラムで発表されています。2016年は26部会から33編の発表がありました。

【戦略委員会】

- ① 地域サービス、② PMコミュニティ活性化、③ 組織拡大、④ 国際連携、⑤ 教育国際化、⑥ 標準推進

【業務委員会】

- ① 翻訳・出版、② PM用語

【研究会】

- ① IT、② EVM、③ ポートフォリオ・プログラム、④ PMCDF、⑤ 組織成熟度、⑥ リスク・マネジメント、⑦ PMO、⑧ PM ツール、⑨ 女性 PM コミュニティ、⑩ IRC、⑪ アジャイル PM、⑫ ソーシャル PM、⑬ ステークホルダー、⑭ ビジネス・アナリシス、⑮ プロジェクトマネジメント、⑯ PM教育

【プログラム】

- ① PMBOK® セミナー、② メンター、③ セミナー

【関西ランチ】

- ① 運営委員会、② PM 実践研究会、③ 医療 PM 研究会、④ IT 上流工程研究会、⑤ 定量的 PM 事例研究会、⑥ PM 創生研究会

【中部ランチ】

- ① 運営委員会、② PM サロン、③ 地域ソーシャル・マネジメント研究会

③ プロジェクトマネジメント関連書籍の割引購入

ホームページを通じて PMBOK® ガイドやプログラムマネジメント標準などのプロジェクトマネジメント関連書籍を会員価格で購入いただけます。日本支部が扱う書籍の中で最も販売数が多い PMBOK® ガイド第5版（日本語版）は、総販売冊数の約3割が会員価格でお買い求めいただいています。

	タイトル	プロジェクトマネジメント知識体系ガイド (PMBOK®ガイド) 第5版 日本語版
	価格	一般: 8,950円 (送料・税込) PMI日本支部会員価格: 6,700円 (送料・税込) 法人スポンサー価格: 7,100円 (送料・税込)
	発行年	2013年
	著者	Project Management Institute, Inc.
商品説明		これまで30年以上にわたり、プロジェクトマネジメント知識体系ガイド (PMBOK®ガイド) は、プロジェクトマ... 続きを読む
		 

④ 翻訳記事やPMBOK® テンプレート集などの閲覧、ダウンロード

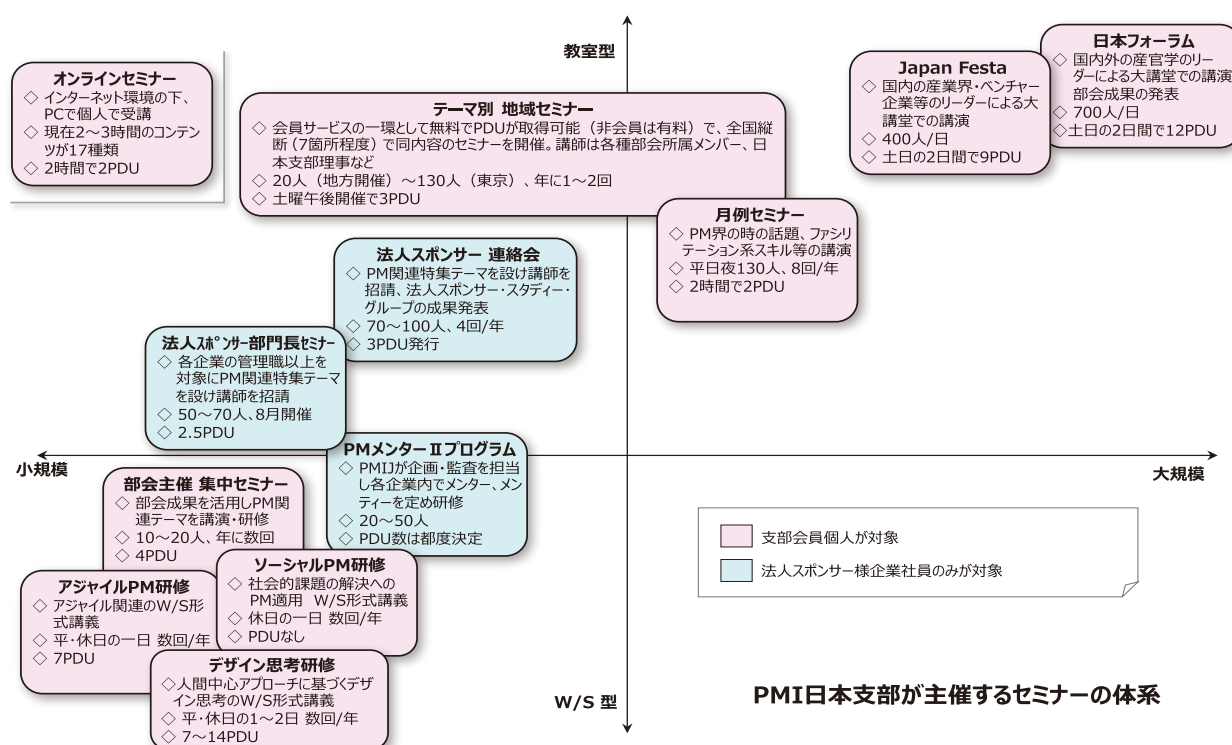
会員専用ホームページで、PMI 本部が発行している PM Network® や PMI Today® などの翻訳記事を参照できるほか、PMBOK® 委員会や PMCDF 研究会、リスク・マネジメント研究会など部会メンバーが作成した実務向けのテンプレートをダウンロードしてご利用いただけます。また、日本支部における過去の翻訳プロジェクトの成果を取り入れてガイドラインとしてとりまとめた日本語表記法を参照いただけます。

▶ 入会手続き

日本支部に入会いただくには、まずPMI本部に入会いただく必要があります。PMI本部ウェブサイトからオンラインサービス登録を行ってください。日本支部会員登録も同サイトから行えます。決済にはクレジットカードがご利用いただけます。

なお、入会時の総必要額189ドル(約22,000円)は、例えば日本フォーラムに2日間通しでご参加いただいた場合の会員価格と一般価格の差額に相当します。日本支部会員としてのさまざまな特典を活用しつつ、プロジェクトマネジメント・スキルの研鑽をお積みください。

PMI 本部		PMI 日本支部	合計
入会費	年会費	年会費	
10ドル (入会時のみ)	129ドル	50ドル	●入会時は189ドル ●以降1年ごとに179ドル



〔参考〕 日本支部会員数、日本国内におけるPMI関連資格保有者数の推移

(各年12月末現在)	年 度			
	2013	2014	2015	2016
PMI 日本支部会員	3,166	3,146	3,227	3,422
CAPM® 資格保有者	58	56	85	98
PMP® 資格保有者	31,799	31,590	32,491	34,451
PfMP® 資格保有者	—	0	1	3
PgMP® 資格保有者	2	4	3	4
PMI-RMP® 資格保有者	6	4	6	6
PMI-SP® 資格保有者	5	4	4	4
PMI-PBA® 資格保有者	—	0	2	3
PMI-ACP® 資格保有者	7	12	16	24

〔参考〕 全世界でのPMI会員数、PMI関連資格保有者数の推移

(各年12月末現在)	年 度			
	2013	2014	2015	2016
PMI 会員	439,689	454,032	478,493	472,269
CAPM® 資格保有者	24,450	27,168	30,474	32,868
PMP® 資格保有者	594,603	639,237	694,534	745,891
PfMP® 資格保有者	—	183	286	403
PgMP® 資格保有者	995	1,161	1,483	1,788
PMI-RMP® 資格保有者	2,584	3,003	3,443	3,886
PMI-SP® 資格保有者	1,090	1,268	1,448	1,603
PMI-PBA® 資格保有者	—	216	569	1,127
PMI-ACP® 資格保有者	4,641	7,282	10,351	14,021

法人スポンサー・プログラム

法人スポンサー・プログラムとは

法人スポンサー・プログラムとは、組織でのプロジェクトマネジメントの普及、向上に関心を持ち、日本支部のミッションに賛同しその活動を支援して下さる企業に対し提供するプログラムです。

法人スポンサー・プログラムのメリット

- ◆日本では数少ない、プロジェクトマネジメントご担当者の意見交換、相互研鑽および人脈拡充の場で、年に計5回、100人規模の情報交換・発表会を実施しています。
- ◆社員の方々は、プロジェクトマネジメントに関する研鑽の場となる勉強会(法人スポンサー スタディー・グループ)に参加できます。
- ◆メルマガにより法人スポンサー・プログラムや日本支部主催イベントのご案内をさしあげます。また、日本支部主催イベントへの参加や日本支部で取り扱う書籍の購入に際し特別割引が受けられます。
- ◆法人スポンサーとして貴社ロゴ、貴社名を日本支部のホームページに掲載しますので、プロジェクトマネジメントに熱心な企業として社会的にアピールしていただけます。

法人スポンサー・プログラム実績

(1)法人スポンサー連絡会※1、PM部門長セミナー※2

法人スポンサーさまの社員のみが参加できるもので、参加者には無料でPDU受講証明書を発給します。法人スポンサー連絡会は四半期ごと、PM部門長セミナーは毎年8月に開催しており、毎回40～50社、80～100名の参加をいただいています。

※1 PMおよびPM人材育成部門の方々に、PM界の最新情報をお伝えします。

※2 PM部門長の方々に對して、部署をリードする際に必要な最新の知識をお伝えします。



法人スポンサー連絡会

- ❖3月度連絡会 特集:PMBOK®ガイド第5版ソフトウェア拡張版
- ❖6月度連絡会 特集:ビジネスアナリシス
- ❖9月度連絡会 特集:ビジネス活動におけるPMコミュニティの価値、今後の在り方
- ❖12月度連絡会 特集:グローバルビジネス推進とプロジェクトマネジメント
- ❖8月 PM部門長セミナー 特集:次世代を担うプロジェクトマネジャー育成



法人スポンサー連絡会

(2)法人スポンサー・スタディー・グループ

スタディー・グループは、法人スポンサーさまの社員のみで構成する勉強会で、各企業が抱える課題について意見交換、調査研究を行っています。2016年は30社を超える企業から延べ97名の方々の参加のもと、5グループが活動しています。

◆人材育成スタディー・グループ

PMCDF(プロジェクト・マネジャー・コンピテンシー開発体系)の人格コンピテンシーに着目し、実践で役立つ成果物を作成中です。2016年度は「人格コンピテンシー副読本」、「チェックシート」を作成しました。現在は実践的バイブルとしての「人格コンピテンシー向上の指南書」を作成中です。

◆若手PM育成スタディー・グループ

若手PM育成を目的に、3つの観点(①PM候補者選定ポイントと方法、②PMのモチベーション維持方法、③若手PM育成方法)のうちの②についてフォーカスし「PMモチベーションの維持・向上の行動」としてまとめました。現在は③若手PM育成方法について検討中です。

◆第一線PM実践力強化スタディー・グループ

2016年度は「孫子の兵法」等の格言からPM実践力を発揮する場面での「気づき」について検討・整理しました。6月にはアジャイル研究会メンバーと意見交換を、7月からはPRINCE2とPMBOK®の比較研究を行っています。

◆グローバルPMスタディー・グループ

グローバルプロジェクトの3つの特性(多言語、多文化、多拠点)を踏まえ、グローバルPMが行うべきこと、所属組織がやるべきこと、経営層がやるべきことを検討しました。

◆PMコミュニティ・スタディー・グループ

ビジネス環境のスピード化、多様化、およびグローバル化に伴い、プロジェクト環境は複雑度、困難度を増し、企業のPMコミュニティの重要性はますます高まっています。本SGでは企業PMコミュニティの活性化、および高モチベーションを維持するために何が必要かを調査・研究しています。

(3)メンタープログラムⅡ

◆メンタープログラムⅡとは

メンタープログラムⅡは、法人スポンサーさま限定プログラムで、当該企業さまが持つプロジェクトマネジメントに関わるノウハウ継承、プロジェクト実践力強化、トラブル対応力強化等のための教育をグループメンタリング方式で実現するものです。メンター、メンティーともPDUを取得できるメリットもあります。

◆対象領域

具体的には、プロジェクトマネジメントを遂行するための必要な関連知識、PMBOK®知識エリアおよびPMプロセス、PMIが設定したプロジェクトマネジメントに係る各種標準などを対象とした教育プログラムを組みます。

◆カスタマイズされた教育プログラム

企画段階で日本支部が支援させていただきながら、当該企業さまの環境(知識、経験、対象部門等)に合ったプログラムを作成することになります。また、場所・日程・時間帯についてもご都合に合わせて設計出来ます。

◆2016年度の実績

2016年度は、大手鉄鋼メーカー、大手シンクタンク、製造業、宇宙・航空企業など、6社/10件のご利用をいただきました。

これらは、海外大型プラントプロジェクト担当PMのコンピテンシー向上、過去の成功・失敗プロジェクトを振り返りPMBOK®と比較し課題や対応策をグループで討議しLessons learnedとしてまとめる、ステークホルダー知識エリアの理解と深掘および自社ステークホルダーへ適用する、PMのリーダーシップ・コミュニケーションについて各自のブレークスルーを図る、PMBOK®第5版を学習し今後注力するエリアおよび自社P&P(Policy & Procedure)へ反映する、などといった内容で実施しました。

行政プログラム

日本支部での行政組織への取組は「事務事業」、「施策」、「政策」をそれぞれ評価しながら、組織としての成果や今後の対応を進めていきます。これらはPMI®が推奨している「プロジェクト」、「プログラム」、「ポートフォリオ」として置き換えられると考えます。

PMI日本支部では、行政スポンサー制度があり、現在、三重県桑名市、滋賀県大津市市民部に登録いただいています。桑名市ではブランディング・プロジェクトを実行し、桑名市のブランディング向上に貢献できました。

大津市市民部ではプロジェクトマネジメントを施策に適用して進められており、マニフェストにプロジェクトマネジメントでの事業実行を掲げ施策の正しい実行を継続されています。

また、富山県氷見市ではプロジェクトマネジメントのご紹介、ワークショップを実施させていただき、市長からはプロジェクトマネジメントについては是非取り込みたいとお話をいただきました。今後も行政へのPMI標準の適用・普及を目指して働きかけを進めて行きます。

アカデミック・プログラム

日本のPM/PMP®の急速な高齢化への対応として若手PM育成のパイプラインの仕組み作りに貢献すべく大学を中心に大学院大学、高等専門学校、中学・高等学校を対象としたアカデミック・プログラムを設定しました。

▶ アカデミック・スポンサー登録の拡充

2016年末時点で大学院、大学、高等専門学校に亘る30校、34部門の登録を得ています。

情報工学部門でのIT開発に留まらず、社会情報学や経済科学部、ビジネス・スクール、さらにはGeneric Skillの主要要素として産学連携センターでの学部横断的な取り組みなど幅広い部門、あるいは一年生から大学院生までにお幅広い対象学年でのPM教育への取り組みが伺えます。

▶ フォーラムにおけるアカデミック・トラックの設置

日本フォーラムは国内最大級のプロジェクトマネジメントのイベントですが、この5年間はアカデミック・トラックを設け、プロジェクトマネジメントを含む実践的教育やジェネリック・スキル向上への各教育機関の実施状況や抱える課題について相互に発表・意見交換を行う場を提供しています。同時に世界的な動向やプロジェクトマネジメント教育の認定制度の紹介なども行っています。



PMI 日本フォーラム2016でのアカデミック・トラック
パネルディスカッション

2016年度は以下の10セッションを実施しました。

- 大学における関連教育プログラムの紹介3件
- グローバル・セッションとして「Project Team」と「GAC 認定プロセス解説_慶應SDM ケース」
- PM教育裾野拡大のテーマで2時間のパネルセッション

- 「体系的リーダーシップ」、「教育現場へのPM手法導入」、「システム×デザイン手法」に加えて企業からの「PM人材育成と大学教育への期待」などテーマ毎のセッション4件



PMI 日本フォーラム2016でのアカデミック・トラック 質疑応答

▶ 大学におけるPM教育支援

広島市大/広島修道大の共通研修について三菱総合研究所殿と共同でシラバス開発、グローバルにまでテーマを広げ5年目の実施支援となりました。このコースでは“企業活動の変化とプロジェクトマネジメント”、“コンピテンシー・モデルの考え方”などPM教育の範囲を広げて方向性を指導したほか、“ITプロジェクトの直面する問題とは?”のテーマで社会でのITプロジェクトの実態と学生のキャリア開発との関連を伝えました。



広島市立大学への映像配信授業の風景

E-Learningパッケージ 「PM 始めの一步」の継続活用

PM教育の裾野拡大を狙って開発した E-Learning パッケージ「PM 始めの一步」の活用を継続しています。これは15分×3巻とし、プロジェクト憲章の策定、プロジェクト計画書の作成、日々の進捗管理と完了評価までをカバーする汎用パッケージです。

早稲田大学において、知識伝達が主体の講義形式のものから、学生側からの自発的学習が主体のものに内容を切り替えていく試みの一環としてのPBL型コース「プログラム電卓を開発」の中で、グループワークの進め方を理解するためにPMの基本を学生が学べる教材として提供しました。引き続きPBLコース「データ構造とアルゴリズム」でも使用し、延べ4年6回の使用実績を重ねました。

3巻のビデオに加えて“スクリプト付きスライドセット”、“演習問題と模範解答”、“理解度テスト”、“指導要綱”、そして今後の指針としての第4巻“ステップアップのために”を加えて教材セットとしての形態を整えていることから、以下のような新たな利用形態が開かれています。

- 同パッケージは広島修道大の1年次生徒を対象とする新規の「PM 入門」コースで教材として活用され、先生による補足説明を加えることでより理解度を深めることが出来ました。
- 中央大学では既存のPM入門コースの中に第1巻を充て込み、新たなコース編成が生まれました。
- 新たに金沢工業大学での使用、中央大学での部分的使用に加えて、大学院修士論文のツールとしての活用、英語版の必要性など利用範囲の広がりが期待されます。

E-Learningパッケージ 「PM 次の一步」の開発

「PM 始めの一步」の深堀に加えてコスト・品質・変更管理を設けた15分×5巻のパッケージを開発しました。大学院生(TA)の育成や、学部でも希望者に対するアドバンスコースとしての位置づけです。これは既に早稲田大学で使用中です。

2016年度末には初級の「PM 始めの一步」とのスムーズな整合性や中級コースとしてのレベル統一を確認すると共に、上級コースへの足がかりとしての6巻目を加えた第2版を完成させました。

1.プロジェクト憲章

プロジェクトを定義して始める

プロジェクト憲章

目的	成果物	なすべきことは何か?	貿易船
	成果物が必要な理由	なぜ必要か?	貿易により国を豊かにするため
	納期	いつまでに	5年後
	品質	完成したと言える理由	太平洋横断・十分な積荷・国威
	コスト	いくらで作れるか	(見積り未実施)

© Copyright PMI Japan Chapter, 2016 All Rights Reserved 16

E-Learningパッケージ教材「次の一步」の一コマ

(2)船建造費を概算する

80人乗れる和船
設計フェーズ 100両
資材集積フェーズ 300両
建造フェーズ 600両
300人乗れる南蛮貿易船、和船より10倍難しい

南蛮貿易船
設計フェーズ 1000両
資材集積フェーズ 3000両
建造フェーズ 6000両

© Copyright PMI Japan Chapter, 2016 All Rights Reserved 20

E-Learningパッケージ教材「次の一步」の一コマ



中央大学文学部社会情報学専攻 教授 飯尾 淳

COLUMN

プロジェクトマネジメントはジェネリックスキル、その発想が工学系ではなく文学部の教員から出てくるといった時代になったんだなあと、昨今、実感しています。私自身はエンジニア畑からの転身ですが、PMIJのアカデミックスポンサーとしての活動を通じて、産学連携ハブのひとつになればと期待しています。また、文系理系の垣根を超えた学際的な活動にも寄与すること、あるいは国際的な活動を支援することができれば、より発展的で皆さんの役に立つ成果が出るのではないかなどと、つらつら考えております。

部会メンバー主催セミナー、ワークショップ

月例セミナー

セミナープログラムのメンバーが講師選定・折衝・当日運営の全てを務めるセミナーで、現役PMをはじめ将来PMを目指す方々に、PMBOK®にとらわれない広い分野のテーマでスキルアップの機会を提供しています。

2016年も、メール・コミュニケーション術、人間心理(ウソ)を見抜くスキルの伝授、防衛装備庁におけるプロジェクト管理強化事例、全体最適マネジメント理論TOCによる実践的ノウハウなど多岐にわたるテーマで各界の専門家に登壇いただきました。計8回の聴講者は延べ1,000人近くに上り、90%の方々に高い評価を得ています。また、8回の全てに参加いただいた方11名には年末のセミナー冒頭で表彰させていただきました。



8回のセミナー全てに参加いただいた11人の方々

オンライン・セミナー

プロジェクトマネジメントのスキルアップを目指す多くの方々に、セミナー開催日程やセミナー会場などの制約を受けないスキルアップ手段と機会を提供するもので、ご自宅PCやモバイル機器で受講いただくことを想定したプログラムです。



COLUMN

2016年 月例セミナー 皆勤賞受賞
鎌瀧 修

2016年1月度の「相手を動かす！メールコミュニケーション術」では、具体的な事例をもとに相手に内容や気持ちが伝わるメールの書き方を学びました。その頃、ちょうど大学教授の方々とメールのやり取りが始まるところでしたので、すぐに私自身が実践するとともに、部内にも内容を展開してメンバーのメールスキルアップに活用させていただきました。

月例セミナーからは常に即実践できる内容を学んでおり、企画・運営スタッフの選抜眼には脱帽です。今後も大いに期待しています。

内容は過去の月例セミナーのほか、全国で開催した「PMBOK®ガイド 第5版ソフトウェア拡張版解説とPMBOK®ガイド最新動向解説」、「PMI Japan Festa 2016講演」など9つを付加して計27コンテンツとなり、多くのPMの方々に有効にご利用いただいています。



アジャイルプロジェクトマネジメント研修

2016年はアジャイルプロジェクトマネジメント研修を9コース開催し、延べ180名にのぼる方々に受講いただきました。

「アジャイルプロジェクトマネジメント基礎」では、アジャイルの概要とその特徴をわかりやすく解説、さらにアジャイル導入時に気をつけるべきポイントを明らかにします。特にアジャイルプロジェクト成功の鍵となっている「アジャイルの基本的な考え方を正しく理解すること」に焦点を合わせています。

「アジャイルプロジェクトスタートアップ」コースでは、プロジェクトの企画・立上げから、見積り・計画までより実践的な内容をワークショップ中心で学んでいただきました。PMBOK®ガイド 第6版ではアジャイルの要素も多く取り入れられる予定で、プロジェクトマネジメントにおける必須のスキルとなっています。

2017年も継続開催し、より多くの皆さんにアジャイルを学んでいただきます。



デザイン思考研修

2016年よりデザイン思考研修を開始しました。2016年は「デザイン思考基礎」を2回開催いたしました。いずれも募集開始後間もなく定員となり、人気コースとなっています。

今、「顧客中心の価値創造」に取り組み、イノベーティブな製品やソリューションを創出する方法として「デザイン思考」がフォーカスされています。同コースではビジネ

スをどのように「顧客の時代」に適應させていくべきか、そのためにまず顧客経験とは何か、ビジネスにおいてなぜ



重要か、といった基本となる考え方をご紹介します。一部の技法をワークショップで体験していただいています。

2017年度は基礎コースの継続開催に加え、実践コースを新規開催する予定です。

ソーシャル・プロジェクトマネジメント実践

PMI日本支部 ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会では、東日本大震災後に立上げた「災害復興支援プログラム」やボランティア活動での経験を活かすべく、ソーシャル・プロジェクトマネジメント手法を体系化し、ワークショップ形式のセミナーとして提供をしています。

「デザイン思考」、「ステークホルダー・マネジメント」、「ベネフィット・マネジメント」、「アジャイル・マネジメント」、「ポートフォリオマネジメント」、「ビジネスモデル・デザイン」の6要素ごとに1日コースを提供しています。

2016年度はコース開発を兼ねたパイロット開催として無料でコースを開催いたしました。2017年度以降は有料コースとしてご提供いたします。

PMBOK セミナー第5版対応

本セミナーはPMBOK®ガイドの全体像を理解したい方、PMBOK®ガイドをプロジェクトマネジメントのツールとして活用したい方、PMBOK®ガイドを通してプロジェクトマネジメントの枠組みを理解したい方、プロジェクトマネジメントの最先端を学びたい方にお薦めする2日間コースのセミナーです。

PMBOK®セミナープログラムのメンバーが講師となり2016年は5月と11月に東京で開催しました。

メンバーが作成した副読本を元にPMBOK®第5版のすべての章を丁寧に解説しています。

リスク・マネジメント研究会セミナー

リスク・マネジメント研究会が企画・運営するセミナーで、2016年は10月に開催しました。

本セミナーでは、リスク・マネジメント・プロセス(リ

スク・マネジメント計画、リスク特定、定性的リスク分析、定量的リスク分析、リスク対応計画、リスクの監視・コントロール)を説明した後、研究会メンバーが作成したIT系のケース・シナリオを基に、一連の流れの中でリスク・マネジメントを体験的に学習できるようになっています。ご自分がPMの立場でリスク・マネジメントを実施するという想定の下、ワークショップ形式でグループ演習を行うため、参加者からはわかり易いと高評をいただいています。

PMO研究会 セミナー&ワークショップ

2016年度もPMO研究会メンバー主催によるセミナー&ワークショップが開催され、参加者の皆さんと共に「今求められるPMOのありかた」を追求しました。

第1部「セミナー」では「戦略的PMO」をモデルとし、PMOが持つべき機能や組織のあるべき姿を体系的にまとめ、事例や最近動向をご紹介します。

第2部「ワークショップ」では、参加者全員が「『ユーザー主導型ITプロジェクト』におけるPMOの役割」、「IT受注企業において重要視されるPMOの取り組み」、「製造業ならではのPMO」の3テーマに分かれて、PMOのあるべき姿、現状の課題などについてディスカッションを行い、多くの知見を得ることができました。

地域セミナー

2015年末の「PMBOK®ガイド 第5版ソフトウェア拡張版」の出版を記念して、その概要を解説する地域セミナーを2016年10月～12月間に札幌市、仙台市、金沢市、さいたま市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市で開催しました。合わせて2017年第3四半期に改訂版の出版が予定されている「PMBOK®ガイド」の最新動向についてもご紹介しています。講師はPMI日本支部理事で標準推進委員会代表である鈴木安而氏。全国8ヶ所合計で220名余(会員以外が57%)の方々に聴講いただき好評を博しました。



首都圏中心の支部会員による活動

地域サービス委員会

首都圏以外での会員サービスを向上させるべく、各地域での活動状況を委員間で共有し、会員サービス向上、地域活性化につながる施策を進めています。

各地域のコミュニティ、ランチの運営ノウハウや会員にメリットのある企画などを共有し、地域活動に活かしています。定例会合はSkypeを活用しています。

特に2017年度に向けては、各地域の産官学との連携により地域活性化を図る活動や、地域セミナー開催にあたってのニーズの共有・支援を行いつつ、地域のコミュニティ活性化と日本支部会員のサービス向上にもつなげていく活動などについて検討を進めました。



SKYPE会議の様子

PM コミュニティ活性化委員会

日本支部の研究会をはじめとしたコミュニティのさらなる活性化を目標に、適切な情報連携、部会間交流・連携イベントの開催、リーダー育成等を行うもので、2016年度は4つのWGを立ち上げました。

当委員会は、日本支部の戦略委員会の一つで、2015年に創設された支部の中でも比較的新しい部会です。支部会員をターゲットに、アクティブメンバーの質・量の増強を目指して活動しています。2016年度に立ち上げたWGは、①リーダーシップ推進WG、②情報発信WG、③部会連携WG、④ボランティア活動支援WGの4つです。

①では、9月に部会リーダー育成のためのリーダーシップミーティング「LM2016」を開催し、昨年に引き続き大きな成果を挙げました。④では、部会活動状況を把握するためのアンケートを10月に実施し、その分析結果をもとに2017年度での③の開始を目指し、「部会リーダー交流会」の仕組み作りを行いました。

組織拡大委員会

日本支部の会員および法人スポンサーの拡大を目的に、新規個人会員入会促進および会員継続率の向上を、また、法人スポンサーでは中堅企業の新規加入をテーマとして活動しました。

リーダーシップミーティング2015での議論内容も参考に、2016年度に優先的に推進すべき項目を具体化しました。

7月の日本フォーラムにて、PMIが提供する価値の個人会員への訴求を目的に、「拡大するプロジェクトマネジメントへの期待～Talent Triangleが示す今後のPM像～」と題して発表しました。12月には、多くの入会者が初回更新を行わずに退会されている現状に鑑み、新規入会者に日本支部の活動を理解いただき、支部会員としてのベネフィットを積極的に活用し、会員を継続していただくことを目的に、新入会オリエンテーションを行いました。

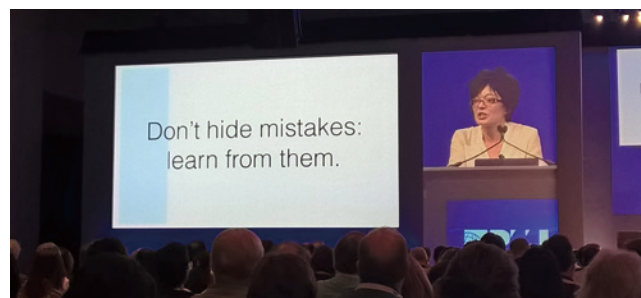
国際連携委員会

海外でのPfM、PgM事例とその有用性、How toを調査し、日本支部会員に対して情報共有を行うこと、また日本支部の活動を、主にR9の各支部に紹介し、相互交流を促進し会員が国の枠を超えてプロジェクトマネジメントについて活発な意見交換ができる場を作ることを目的に活動しました。

国際連携委員会では、North America LIM, North America Congressに参加し、他支部の方々との意見交換・情報収集を行いました。これを基に、PMI本部がプロジェクトから明確にPgMへシフトしていること、各国の会員自身が今後PgMで標準化されている手法やプラクティスが必要になることを認識し、PgMのスキルをどのように身に付け実践していくのか真剣に議論していること等について支部会員の皆様に情報発信しました。

また、有志の力を借り、本部が発行するPgM、PfMに関する研究記事7本を翻訳し、本部のホームページから閲覧できるようになりました。

今後も本部の動向の紹介、支部間交流の活発化等を通して、日本支部会員がメリットを享受できるよう活動を継続して行きます。



North America Congressで行われたセッションの1コマ

教育国際化委員会

プロジェクトマネジメント(PM)教育の普及と国際化を戦略的に推進するための組織として2016年度に準備委員会を発足させ、目標設定、体制構築のための活動を実施し、教育国際化委員会が発足しました。

日本支部の戦略との整合を図り、教育機関関係者、産業界の専門家との幅広い連携の下、PMに関する知識・素養が「今後社会に求められる人材」のジェネリック・スキルであることを広く発信し、PM教育の国際化と普及を推進することとしました。

首都圏中心の支部会員による活動

下記の3点を重点施策とし、教育機関関係者と産業界専門家による委員会をキックオフし、中期活動計画を立案しました。

- (1) PM教育の必要性・有効性に関する啓発活動の強化
- (2) 国内外のPM教育に関する情報交流HUB機能の強化
- (3) PMI本部のリソースと支部とのグローバルなネットワークを活用したPM教育の普及



教育国際化委員会のキックオフの様子

標準推進委員会

PMIの標準書、実務ガイド等を調査、邦訳し、日本のPMコミュニティへ提供することを趣旨として活動しました。2016年度は「Managing Changes」を翻訳することとPMBOK®ガイド第6版の翻訳活動に参加することを目標に活動しました。

戦略委員会の中の一つとして2016年に発足した部会で、PMIの標準書や実務ガイドの調査、翻訳・発行、翻訳スキルの向上を図りつつ、標準書を普及させることを活動の柱としています。2016年は実務ガイドとして「Managing Changes in Organizations」を選び、2017年第一四半期での発行を目標に翻訳を始めました。

さらにPMBOK®ガイド第6版が2017年第三四半期に発行予定のため、世界各国の有志と共にその翻訳活動に参加しています。2016年は8月にドイツのフランクフルト、12月にはハンガリーのブダペストに集結して成果をあげています。

2017年には、PMIから各種標準が発行される予定ですので、それに向けた翻訳体制を構築中です。ぜひご協力をお願いします。

PM翻訳出版研究会

PMI本部が発行する実務標準や定期刊行物の翻訳や出版を通じて、日本支部会員や国内PMコミュニティへの貢献を活動目的としています。

BA研究会のプロジェクトに当研究会から4名が参加し「実務者のためのビジネスアナリシス：実務ガイド」(2017年1月出版)の邦訳を、標準推進委員会のプロジェクトに当研究会から3名が参加し「Managing Change in Organization: A Practice Guide」の邦訳を実施中です。

日本フォーラムでは「パルス・レポートが明らかにする

理想の新しいPM像」のタイトルで、パルス・レポートとタレント・トライアングルについて解説しました。

また、PMI本部発行のPM Network®、PMIパルス・レポートを翻訳し、日本支部HPの会員向けサイトに掲載しました。



昨年の合宿の様子

PM用語委員会

日本語版で出版されるPMI標準書の用語を取り込んだ「PM用語集約集」を作成・改訂し、日本支部会員向けサイトに公開することを活動目標としています。

2016年に出版された日本語版PMI標準書の中で「PMBOK®ガイド第5版ソフトウェア拡張版」の用語を取り込んだPM用語集約集第5.2版を発行しました。併せて「PMI® LEXICON of Project Management Terms」の用語を基本用語として追加し、合計2,880個の用語、201個の略語を掲載しています。

「PM用語集約集」は、英語・日本語の関連だけではなく、用語の出典元、ISO用語、用語の変遷などの情報も記載しています。これは日本支部会員であればどなたでもダウンロードできますので、ぜひご参照ください。

なお、PM用語委員会は2016年を以って終会し、2017年より標準推進委員会の一部としてその活動を継続します。

IT研究会

IT業界におけるプロジェクトマネジメントに関するベスト・プラクティスを研究し、メンバーの研鑽を図るとともに情報共有・交換を行っています。2016年度はITプロジェクト現場におけるHints & Tipsを取りまとめ、IT系 若手プロジェクト・マネジャー向けガイドの作成を目標に活動しました。

ITプロジェクト現場におけるHints & Tipsの作成は2006年度にも扱ったテーマで、ITプロジェクト全般を広く扱うため、各メンバー自身が興味ある事例に取り組みやすい点が特徴です。当時の成果物を参照しつつ、IT業界の最新状況を踏まえて、メンバーが経験した事例をもとに議論を深め、新たな気づきや成長につながりました。IT研究会では、今後も継続してHints & Tipsのコンテンツを蓄積し、プロジェクト・マネジャー向けガイドとして取りまとめて行きます。

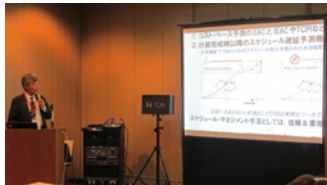
首都圏中心の支部会員による活動

EVM 研究会

EVM(Earned Value Management) 研究会は、国内のEVM事例研究や海外の最新EVMの論文研究を行っています。2016年度は、ES(Earned Schedule)についての海外論文を研究しその成果を公開することを目標に活動しました。

EVM最新トレンドWGでは、ESに関する海外論文を翻訳して議論し、その成果は、日本フォーラムで『時間軸によるEVMパフォーマンス分析手法の紹介と動向』と題して発表しました。当該発表資料は、2016年11月にESの海外公式サイトである「The official site for Earned Schedule information Earned Schedule」(<http://www.earnedschedule.com/>)に掲載されました。

定量的PM事例研究WGでは、ESに関する海外論文の翻訳と解説の資料を作成し、関西支部の研究会メンバーにも毎月紹介しました。ESについての成り立ちを理解し、開発現場で実践する上で大いに役立っています。PMI日本フォーラムでの成果発表の様子



ポートフォリオ/プログラムマネジメント研究会

メンバーによる自主的な『実践、活用、研究活動』を源泉とし、ポートフォリオ/プログラムマネジメント(PfM/PgM)について、ノウハウや知見をまとめ、『経営課題を解決するPM知の普及』への貢献を目的に活動しています。

PfM/PgMをより深く体得するため、2017年後半リリース予定のPfM/PgM標準第4版公開草案レビューへの参加や、他標準、ビジネスアナリシス、ベネフィット・マネジメント等との関係性について調査・研究するとともに、適用事例を収集しました。

また、昨年に引き続き富士通(株)殿との合同勉強会でIT業界での有用性を検証したほか、メンバー自身による、建設、大規模R&D、スタートアップ、M&A、中期経営計画策定などの活動を通し、幅広い領域でのPfM/PgM知見が獲得できました。

アウトリーチ活動として、メンバーのPfMP®資格取得を実体験ベースにした受験対策セミナーを開催し、大きな反響がありました。2016年度研究会合宿@軽井沢の様子



PMCDF 研究会

タレント・トライアングルを踏まえ、プロジェクトマネジメント・タレントの育成手法の研究を目標に活動しています。

優秀なプロジェクト・マネジャーになるためには知識やスキルを身につけるだけでは不十分で、PMコンピテンシーを発揮できるようになることが必須です。このPMコンピテンシーの概念や重要性の普及のため入門冊子を作成し、一般へも公開しました。

また、PMI本部の調査“Pulse of the Profession2015”と連動したコンピテンシー育成に関するアンケート調査を実施し、日本フォーラムで発表した上で、さらに考察を加えた報告書を支部会員へ公開しました。

一方、プログラム・マネジャーのコンピテンシー・フレームワークについても世界の標準や書籍との比較調査を行い日本フォーラムで発表しました。



忘年会の様子

組織的成熟度研究会

OPM3®を中心に組織的プロジェクトマネジメント(OPM)の方法論を研究し、ベストプラクティスの普及・展開を目指して活動しています。2016年度はOPM3®に加え、PMIのガバナンスに関するプラクティスガイドの研究も行いました。

OPM3®では、組織イネーブラーのベストプラクティスについて定例会でディスカッションし、日本企業での展開方法などを検討しました。また、PMIから新たに発行されたガバナンスに関するプラクティスガイドも研究テーマに取り込み、メンバーの知識向上に活用しました。事業戦略とプロジェクトマネジメントの連携、ガバナンスの強化など、組織的プロジェクトマネジメントはますます重要になってきていると感じています。



月次定例会の様子

リスク・マネジメント研究会

日本におけるリスク・マネジメント(RM)の普及と、レベルアップに貢献することを目的とし、2016年度は個人研究をベースとした活動を基本としながら、月例会での討議結果を積極的に外部発表すること、支部の他部会との積極的な協働を目標に活動しました。

月例会では必ずテーマを定めて90分程度議論し、要約をグループ・リーダーが発表する形式をとり、それを次年度の研究発表へつなげています。

日本フォーラムでは、「デスマーチ・プロジェクトの対策とリスク・マネジメント」と題し、要因と事例、予防対策と提言の計4編を発表しました。また、毎年恒例のRM研究会主催ワークショップセミナーを10月に開催し、いずれも高評価をいただきました。

研究活動においては、リーダーシップミーティング2016で学んだシステム×デザイン思考を取り入れ、RMの新たな技法や次世代RMの研究、およびRMにおける諸問題のソリューション検討を進めています。



月例会での討議の様子

首都圏中心の支部会員による活動

PMO 研究会

PMO 研究会はPMOのあるべき姿や実践に関する研究・情報発信を行い、PMOの発展に貢献することを目的としています。2016年も日本フォーラムとワークショップの2大イベントを完遂し、新たな取組みも行いました。

日本フォーラムでは、『「戦略的PMO・実践編」 大企業A社の事例研究と今後のPMOの動向』と題して発表しました。

また、当研究会主催のワークショップは、例年同様、参加者の方から高評価をいただきくとともに、参加者の方との交流をPMO研究会の資産として蓄積出来ました。

毎年恒例となった有志メンバーによる終日の「集合合宿研修会」では、メンバーごとに関心のあるテーマを持ち寄り発表し、より密度の濃い議論を展開しています。



ワークショップ当日の研究会メンバー

PM 教育研究会

教育分野におけるプロジェクトマネジメントの普及を目的とし、大学・大学院へのPM講義実施を主なテーマに、約40名のメンバーが活動しています。グローバル化対応のため、英語によるPM講義等にも取り組んでいます。

2016年は、大学院/学部/短期大学に対するPM講義を計6校に対して実施したほか、日本フォーラムにおいて発表しました。

また、プロジェクトマネジメントの教育セミナーを実施するための活動や、ジュニア教育にプロジェクトマネジメントを展開するための研究活動という新たな2件の活動を立ち上げました。

2017年度からは「教育委員会」から「PM教育研究会」へと名称を変更し、引き続きPM教育プログラムの開発・提供、PM講義の実施、PM教育に関する「知の結集」に取り組んでいます。

PMツール研究会

メンバーが知恵と経験を出し合い、プロジェクトを上手く推進する実践的なツール使用法を研究しています。

2016年度は、新たなPMツール開拓を目的に、ビジネスモデル・キャンパスをプロジェクトで活用する方法を探求しました。

プロジェクトの推進のための知見として、クリティカルパスのようなPM技法やツールがPMBOK®に挙げられています。しかし、単に技法やツールを知っているだけでは、適切にプロジェクトマネジメント遂行できません。

2016年度は、新しいPMツールの発見をテーマに、マーケティングや経営の分野で注目されている「ビジネスモデル・キャンパス」をプロジェクトに活用する方法について、メンバーの知見を基に実践的な観点から討議し、成果は日本フォーラムで発表しました。

2017年度はさらに深掘し、ぶれないプロジェクト運営を行うために「バリュー・プロポジション・キャンパス」も活用した方法を研究します。



定例会での一コマ

女性PMコミュニティ WomenOBF

プロジェクト・マネジャー(PM)やPMを目指していたり、プロジェクトに何らかの形で関わっていたりする女性たちが、自らの経験を踏まえてプライベートとバランスをとりながら活躍するための情報交換・研究を行うことを目的としています。2016年はプロジェクトの現場で女性・男性が協力し合って活躍するにはどうすればよいかを活動テーマとしました。

2012年の活動開始以来、時代の変化と共に研究テーマも変化してきました。4年を経て、プロジェクト現場で活躍する女性は増えてきましたが、その働き方には女性だけではなくプロジェクトに関わる全ての方に共通するいろいろな課題があります。それを踏まえ、2016年は日本フォーラムで「女性PMの働き方改革 ～PMは休めない?」と題して事例を交えた働き方の課題と解決策を提案しました。また、定例会では2015年度に実施した男性の働き方に関するアンケート調査を踏まえた議論を行い、12月の定例会では、実際に女性PMを育成する立場にある管理職男性をお招きし「女性PMを育成するには?」をテーマに意見交換を行いました。



PMCDF研究会(現 PMタレントコンピテンシー研究会) 渡辺 敏之

前職で人材育成担当になった2008年、フォーラムに参加し、「ここ10年のテーマは【PMコンピテンシー】と【プログラム】」だと勝手に思い込み、早速「ポートフォリオ/プログラム研究会」に参加しました。

参加メンバーの素晴らしい活躍に感動し、続いて「人材育成スタディグループ」や「PMCDF研究会(現PMタレントコンピテンシー研究会)」にも参加しました。

部会活動の良いところは、素敵な人たちと一緒に新しい方向へ進んで行けることです。

コミュニティ活動がPM人生の幅を大きく広げてくれたことに大変感謝しています。

COLUMN

首都圏中心の支部会員による活動

International Relationship Community, IRC 研究会

在日外国人と日本人PM達の、共通の関心を持った人々のための交流の場となることを目的に活動しています。2016年はアクティブメンバーの拡大と、日本支部の他委員会・研究会とのコミュニケーションおよび関係強化を目標に活動しました。

2016年は月次定例会を10回開催、また日本フォーラムにて日本支部会員や在日外国人PMを対象に調査した「PMBOK®の実用性に関する意識」について研究成果を発表しました。また、9月にインドネシアのジャカルタでインドネシア支部との共催セミナーを開催しインドネシア支部会長をはじめ約60名が参加する盛大なイベントとなりました。パネルディスカッションも行い、日本とインドネシアでのさまざまな国際プロジェクトを成功させるための知見を共有しました。2017年も海外支部との交流・発信の場を作りたいと考えています。



インドネシアセミナー終了後の集合写真

ソーシャルPM研究会

NPO・ボランティア活動に参加し、社会課題解決に役立つPMは何なのかを研究しています。2016年度はそのソーシャルPMフレームワークの提案とワークショップを通じた認知度向上を活動の中心に据えました。

NPO・ボランティア活動としては、情報支援レスキュー隊がPMOとして、某社会福祉協議会ではコンサルとして、あるいはサービスグラントのプロボノ活動等にも参加しました。

活動を通じて、社会課題解決に有効なソーシャルPM手法を選定・検証し、ソーシャルPMフレームワーク6コース(デザイン思考、ペネフィット、ステークホルダー、ポートフォリオ、アジャイル、ビジネスモデルデザイン)を提案し、それをワークショップで実践しました。1年間の延べ受講者数は120名にもぼり、アンケートでも高評価をいただきました。

振り返りから得た教訓をもとに、さらなる改良を行い2017年もワークショップを継続開催して行きます。



ワークショップ オープニングの様子

アジャイルプロジェクトマネジメント研究会

アジャイル プロジェクトマネジメントの普及と情報発信を目的とし、「アジャイルPMの意識調査」を日本フォーラムやアジャイル関連の外部イベントで報告することを目標に活動しています。

定期的に行っているアジャイルPM関連の読書会やPMI-ACP試験の受験・合格を目指す勉強会でスキルアップに努めています。2016年は「アジャイル プロジェクトマネジメント

の実態」に関するアンケート調査を元に分析を進め、その結果と提言を日本フォーラムで発表しました。

また、研究会メンバーがアジャイルの他団体との事例セッションで発表したり、小冊子に執筆したりと、情報を発信しています。



定例会の様子

ステークホルダー研究会

ステークホルダー・マネジメントに対する調査、研究を通じて、プロジェクトの現場で活用できる具体策を体得し、広く情報提供することを目的に活動しています。

「ステークホルダー登録簿」を研究テーマとし、ステークホルダー・マネジメント分析を行うために取り上げるべき事項について討論しました。

また、2017年第3四半期にリリースされる予定のPMBOK®ガイド第6版のExposure Draftを読み解き、第5版からの変更点について分析しました。

また、日本フォーラムにおいては、忠臣蔵をテーマに、大石内蔵助の目線でステークホルダー・マネジメント分析を行ったものを含めて、2件の講演を行いました。



定例会の様子

ビジネスアナリシス研究会

PMIのビジネスアナリシス実務ガイドを深く調査し日本国内に紹介することによってビジネスアナリシスの普及を行うものです。2016年はビジネスアナリシス実務ガイドの日本語版を出版することを主目標に活動しました。

翻訳出版委員会と共同でビジネスアナリシス実務ガイドの翻訳を行い、日本語版の出版を果たし、国内にビジネスアナリシス実務ガイドを紹介するとともに、内容を紹介するセミナーも開催しました。

ガイドを読むだけでは明確には分かりづらい部分について研究会で調査・研究を続け、さらに深掘りした内容について紹介できるように活動を進めています。具体的にはビジネスアナリシスにおいてさまざまなモデリング技法を活用することが推奨されていますが、どの技法をどう活用したらよいかを知ることが難しいため、ストーリーを作りながら適用例などを考えて紹介できるように活動を進めています。



定例会の様子

首都圏中心の支部会員による活動

PMBOK® 委員会

PMBOK® ガイドの正しい理解を普及させることを目的に、PMBOK® 委員会メンバーはエバンジェリスト(Evangelist)であるとの認識の下、わかりやすく説明/具体例を見せる/正しく理解させる/最新技術説明をモットーに活動しています。

年初の1月16日・17日に合宿を行い、PMBOK®の普及についてディスカッションしました。

2015年に引き続き「PMBOK® ガイド第5版 紹介シリーズ」として、日本支部ホームページに連載しました。第9回:リスク・マネジメント/第10回:統合マネジメント/第11回 PMBOK® ガイドは使えるのか/第12回 PMBOK® ガイド拡張版。

また、現場の問題や悩みをぶつけ合いながら、先輩や専門家の話を気楽に聴くことを目的に、「プロジェクト、プログラム、ポートフォリオマネジメントの勧め」、「問題プロジェクトの教訓と対策」、「PMBOK® ガイド第5版 ソフトウェア拡張版」などをテーマに「PM-ZEN(禅)」を5回にわたり開催しました。



第11回 PM-ZENの様子

PMBOK® セミナープログラム

PMIが発行しているPMBOK® ガイドを学習する機会を一般に提供することを目的にセミナーを開催しています。また、講座品質を維持・向上させるため、テキストの改定や、セミナー・インストラクターの養成を行っています。

本プログラムで作成したオリジナル・テキスト(PMBOK® セミナー 副読本)を使用し、PMBOK® 第5版対応セミナーを東京で2回開催しました(5月、11月)。

受講者に満足していただけるよう、過去のQ & Aや講座でのやり取りを基に、継続的に内容を見直しテキストを改訂しています。新入会メンバーの1名がセミナーで登壇しました

が、講座全体レベルの維持向上を図れるよう入念にリハーサルを行い、個々のメンバーのインストラクション能力の伸長を図りました。また、既存メンバーから2名が新たに講座全体を統括するコースディレクターを担当しました。



2016年11月東京開催 PMBOK® 第5版対応セミナーの様子

セミナープログラム

セミナーを通じてPMにスキルアップの機会を提供するとともに、PM相互の人的ネットワークの形成を図ることを目的としています。2016年も月例セミナーとJapan Festaのそれぞれで、受講者満足度90%以上を目標に活動しました。

月例セミナーは平日19時から2時間、渋谷駅から徒歩5分の会場に固定し2016年も計8回開催しました。特にタレント・トライアングルのリーダシップ、ストラテジック&ビジネスマネジメントを中心に高い満足度の講演を企画・運営しました。延べ962名に聴講いただきましたが、全てに参加された方が11人もおいでになる人気の定番セミナーとなっています。

また、11月5日、6日に開催したJapan Festa2016は2月から本格的に企画・準備を開始し、10人の講師に登壇いただきました。初の試みとして、講師への事前インタビュー・動画公開やパネルディスカッションを行いました。延べ693人もの方々に参加いただき、交流会も40名を超え、盛況裡に終了しました。



9月 月例セミナーの様子

関西 brunch 所属支部会員による活動

関西 brunch 運営委員会

2016年は、関西 brunch の研究会成果発表など発表機会の創出や外部有識者招聘などを行い、外部交流を通じて関西 brunch の発展に寄与することを目標に掲げました。

関西 brunch の運営は梅田のグランフロント・ナレッジサロンを拠点としており、brunch の5つの研究会代表メンバーと運営委員が協力して事務局機能を担っています。

日本フォーラムでの発表は優秀賞をいただくことができました。年末の成果発表会では、日本支部会長や理事、事務局長などの参加を得て多くの気づきをいただきました。

また、各研究会の発表内容に対しては参加者との間で活発な質疑・議論が展開され、次年度研究に向けた課題共有を図るなど研究成果に深みをもたらす場となりました。



関西 brunch 運営委員会主要メンバー

関西ブランチ所属支部会員による活動

関西ブランチ PM実践研究会

実践研究によるプロジェクト成功率向上とプロジェクト・マネジャーの実践力向上を目的として活動しています。2016年は実践事例とPMコンピテンシーとの関連性を考察することを目標に活動しました。

「組織行動のマネジメント(書籍)」の勉強会を継続実施し、組織行動学の知見としてプロジェクトマネジメントの実践に応用可能な項目を抽出しました。また、ショートケースを用いた事例研究を行うことにより、実践事例とPMコンピテンシーの関連付けの手法を提案しました。

通算8回目となる事例ワークショップとして、新企画となる「ショートケースを用いたPM実践ワークショップ」を開催しましたが、参加者アンケート結果からは、実践力の向上と多くの気づきを与えることができたことが確認できました。参加者からの評価も高く、来年も継続開催したいと考えています。



定例会での集合写真(奥澤会長を囲んで)

PM創生研究会

「日本の風土に合ったプロジェクトマネジメントを創造し社会に貢献すること」をミッションとし、2016年はPMIタレント・トライアングルを具体化し、実践することを目標に活動しました。

2016年は先に挙げたミッションを達成すべく、①経営者が期待するプロジェクトマネジメント ②PMCDFを補完する日本的リーダーシップ ③PMI標準の理解と実践的活用をテーマとした3つのワーキンググループで総合的にプロジェクトマネジメントを研究することで、PMIタレント・トライアングルを実践可能なレベルに掘り下げました。

また、社会貢献活動としてプロボノ・プロジェクトなどに参加することで、PM教育と実践力を高めるための活動を行い、その教訓をソーシャル体験談集にまとめました。研究成果は、日本フォーラムで「若手PMでも使えるPMI標準の実践的な活用方法」と題して講演を行い、優秀賞を受賞しました。



秋の合宿での記念撮影(伊勢志摩)

定量的プロジェクトマネジメント事例研究会

定量的データをプロジェクトマネジメントに活用するノウハウを収集する活動とCCPMの普及活動を行っています。2016年は、参加メンバーが関心のある新規研究テーマを深堀することを目標に活動しました。

定量的PM事例研究WG(EVM研究会との合同WG)では、各メンバーが関心のあるテーマとして「欠陥予測に繋

がる振り返り、実践型EVMシート構想(神野)」、「欠陥予測ツール汎用化の課題(山田)」、「新事業創出活動におけるステークホルダーとの合意形成(石川)」について事例発表と議論を行いました。

CCPM研究WGでは、CCPMの仕組みや効果を体験できるワークショップ参加を通じて、プロセス内の過不足を調査しました。現時点ではほぼ全てのプロセスをカバーしていますが、CCPMの管理を回すためのマネジメントに関するワークショップが不足しているため今後強化が必要とわかりました。



関西ブランチ成果発表会での発表の様子

IT上流工程研究会

2015年に提言した「協調的プロジェクトマネジメント」を具現化するために、プロジェクト現場で実践すべきプラクティスの体系化を目標に活動しました。

協調的プロジェクトマネジメントの実践をテーマに、プロジェクトマネジメント、ビジネス・アナリシス、アーキテクチャ・デザインの各領域の専門家との間で学際的な研究に取り組むとともに、プロジェクトとビジネス価値の関わりについて議論を深めました。

その成果として、日本フォーラム2016では、価値創造のためのプロジェクト・デザインという視点を提言しました。また、プロジェクト・ステークホルダーが協調に向けて実践すべきことを体系化しました。

今後は、研究会内外のメンバー同士が共感し合い協調することで、それぞれにとっての価値を、実際に創造する段階へ進めていきたいと考えています。



PMI日本支部フォーラム2016での講演の様子

医療プロジェクトマネジメント研究会

「医療現場におけるプロジェクトマネジメントの特徴」をテーマに、2016年はアカデミックな研究手法を採り入れ、川崎医療福祉大学と共同研究を行い、研究成果をまとめました。

医療現場におけるプロジェクトマネジメントの特徴をさらに詳細・明確にするため、同じ非営利組織である「教育現場」におけるプロジェクトマネジメントをモデル化し、医療と教育の比較検討を行いました。

その結果、より詳細で具体的な特徴が抽出できたため、その成果を日本フォーラム2016で発表しました。また、ProMAC2016(オーストラリア)にて講演発表を行いました。さらに、本研究の副産物として、教育現場のプロジェクトマネジメントの特徴と課題が抽出できたため、その成果を広く世に示すべく、2017年度末までに出版原稿を完成するよう活動中です。

中部ブランチャ所属支部会員による活動

中部ブランチャ 運営委員会

2015年11月に設立した中部ブランチャの運営全般を担っています。

運営委員会は月1回のペースでWeb会議を開催しています。その会議を軸として、2016年はPMサロンの定期開催の支援、研究会の立上げ支援、日本フォーラム2016の名古屋(リモート)開催を支援しました。

運営活動については、PMサロンの開催案内、活動報告を日本支部のホームページ、Facebookページをフロントとして情報発信するよう環境整備を行いました。

また、運営活動の実施状況を踏まえて運営作戦会議を開催しBMC(ビジネス・モデル・キャンパス)、VPC(バリュー・プロポジション・キャンパス)のデザインツールを使い2017年度の年間計画を立案しました。



運営委員会のメンバー

中部ブランチャ PMサロン

プロジェクトマネジメントに関する情報共有の場を提供し、PM育成およびPM候補者の掘り起こしを通じて、中部地区におけるPM活動を支援していくことを目的に活動しています。

月1回のペースでPMサロンを開催するとともに、日本フォーラム2016の開催を支援しました。新しい集客プラットフォームとしてConnpass(勉強会支援プラットフォーム)を採用し、twitter、Facebookと連携し、イベント運営の効率化およびメーリングリストの有効活用を実現しました。昨年度と比較して集客数が増加し、中部地区におけるPM育成に貢献できたと考えています。

2017年に向けて戦略会議を開き、多様な方がマネジメ

ントを学べるイベントを計画立案しています。



PMサロン開催の様子

中部ブランチャ 地域ソーシャルマネジメント研究会

地域活性化や社会的な課題の解決に向けプロジェクトマネジメントがどう貢献できるかを考え実践する研究会です。2016年は活動元年として研究会の方向性を定め、活動となる基盤づくりを目標に活動しました。

本研究会の方向性の第一軸は、人に焦点を当て人の内面から社会的な課題の解決に向けた活性化すること、第二軸は地域の社会活動の中でプロジェクトマネジメントを「手段」として有用性を証明し、さまざまな場面で「実践」、「活用」することで地域の活性化に貢献することです。

2016年は、活動基盤を整えるため、ソーシャルPM研究会に協力を仰ぎ、さまざまな勉強会に参加しました。ここで培った知見を基に2017年はミニマムなソーシャル活動イベントを実践し、今後の本格的なソーシャル活動への足掛かりとしていく予定です。



年間作戦会議の様子

法人スポンサー社員による活動

人材育成スタディ・グループ

プロジェクト・マネジャーに必要な人間力に着目し、実践で役立つ成果物を作成することを目的に活動しています。

2016年は「プロジェクト・マネジャーの人間力強化書」のドラフト版を作成しました。これは主人公がプロジェクトのさまざまな問題に直面し、悩みながらも成長していく姿を表現したものです。この読者が共感を得て下さり成長に役立てていただければ幸いです。

メンバーは、法人スポンサーの社員で年齢、職種もさま

ざまですが、皆さん個性豊かな親しみのある方たちで、その後の懇親会も充実しています。



PMI日本フォーラム2016での発表後の様子

法人スポンサー社員による活動

若手PM育成スタディ・グループ

若手PM育成を目的に、3つの観点・テーマ(①PM候補者選定ポイントと方法、②PMのモチベーション維持方法、③若手PMの育成方法)で順次検討しています。2016年は第2テーマを検討し、成果を法人スポンサー様へ公開しました。

2016年は、現場で使えるより実践的な方法、ツールを生み出し、日本のPM育成に貢献することを目標に、テーマ②「PMになりたがらない(モチベーション維持・向上)」を検討しました。

その成果は、「PMモチベーション維持・向上行動規範(ステークホルダー別)」として日本フォーラム2016で発表すると同時に、日本支部ホームページを通して法人スポンサー様に公開中です。



日本フォーラム2016での発表の様子

第一線PM実践力強化SG

英国政府系プロジェクトマネジメント手法であるPRINCE2におけるPM実践力に関するノウハウを学ぶことを目的としています。2016年は、PRINCE2をSGメンバーで輪読し、PMBOK®との比較研究資料も踏まえて、PM実践力に関するノウハウ調査を目標に活動しました。

最初に、「成功のためのプロジェクトマネジメント手法PRINCE2(日本語版)」をSGメンバーで輪読し要約リストを作成しました。その上で、PMBOK®との比較研究資料(Klas Skogmar氏White Paper等、国内外にあり)から差異の観点リストを作成しました。さらに、この差異観点を基に再度PRINCE2本書を読み込み、PM実践力のノウハウを抽出し具体化リストを作成しています。今後、

PRINCE2プラクティショナリ試験研修のケーススタディ資料からも同様の検討を試みる予定です。

なお、PM実践力のPMの意味をプロジェクト・マネジャーの役割に限定せず、広く組織の各役割の中で捉えて、プロジェクトマネジメントの実践力を発揮できることとして検討しています。



2016年2月の定例会

グローバルPMスタディ・グループ

グローバル・プロジェクトに携わるプロジェクト・マネジャー向けの課題を調査し、その背景情報・分析情報を共有することを目的とし、2016年度はグローバル・プロジェクトマネジメント・ハンドブックをまとめることを目標に活動しました。

過去4年の活動を整理し日本フォーラム2016や法人スポンサー連絡会、支部会員向けコラムで情報発信したほか、その他のスタディ結果をまとめてグローバル・プロジェクトマネジメント・ハンドブックとしてまとめました。

本ハンドブックは、翻訳書の出版、ゲストスピーチ、学会論文紹介など多岐にわたるこれまでの活動を踏まえ、PMBOK®の補助文書としてそれらの要点をまとめたものであり、プロジェクト遂行上の課題対処の一助となることを期待しています。



グローバルPMスタディ・グループ打ち合わせの様子

PMコミュニティ・スタディ・グループ

複雑度、困難度を増すプロジェクト環境に対応するため、企業PMコミュニティの活性化、および高モチベーションを維持のために何が必要かを調査しメンバー企業に還元することを目標に2016年10月にキックオフしました。

2016年は本SGで何をめざすか徹底的に議論しました。その結果、各社PMコミュニティの目的・狙いを整理しまとめること、先行企業各社のメニュー、運営ノウハウ、抱えている課題にフォーカスし作業を行うこととしました。また、本SGのスローガンとして「PMコミュニティがPMを変える～惹かれるPMコミュニティのつくりかた～」を掲げることとしました。



初会合の様子

COLUMN

若手PM育成スタディ・グループ 水野 啓之



弊社では10年以上前からプロセス改善や育成に注力してきたものの、①PMになりたがらない若手、②そんな若手の成長をうまく支援しきれない組織、といった問題を抱えていました。

そんな問題意識にフィットする当SGの存在を知り、2013年から途中入会しました。当時はPMモチベーションをテーマとして検討していたこともあり、参加企業の皆さんの意欲の素晴らしさに感銘を受け、非常に良い刺激となりました。

今でも月に一度の会合は新鮮で、ほぼ皆勤継続中です(弊社は地方のためスカイプが主)。2016年度は光栄にも、フォーラム発表という貴重な経験をさせていただきました。

各種情報の発信

ホームページは、日本支部の活動を支える重要な媒体で、2016年は約10万件/月のアクセスがありました。

各種セミナーの告知・エントリー処理、書籍販売・決済、PMI本部発刊記事の翻訳記事の紹介、ニュースレターの掲載、海外コンgres出張やセミナーの開催時の結果報告、日本支部会員・法人スポンサー社員向け専用ページなど、さまざまな情報発信に活用しています。

注目度・閲覧数が多いことから、バナー設置による企業広告や関係団体のイベント告知にも活用いただいています。

ターゲットを絞ってタイムリーな情報を提供するFacebookページと連携させ、会員をはじめとしたステークホルダーの方々に有効に活用いただいています。



ダウンロード・ツール

日本支部の各部会が成果品として作成したテンプレートを会員の方々が実務で活用いただけるよう公開し、ホームページを通して無料ダウンロードいただいています。テンプレートは、使用された方々からの意見を基に逐次ブラッシュアップを行っています。

2016年は、日本支部会員の方々に①～③を、法人スポンサー社員の方々に③をご利用いただきました。

① PMBOK® 第5版対応 テンプレート集 (PMBOK® 委員会)

2億円程度の中規模ITプロジェクトのマネジメントを想定したテンプレート(37種類のテンプレートと9種類のテンプレート・ガイド)



② リスク・マネジメント テンプレート (リスク・マネジメント研究会)

- ◆ リスクの発生確率影響度の定義
- ◆ リスク・マネジメント役割分担リスト
- ◆ リスク記述票
- ◆ リスク登録簿

◎:対応策実施中,○:監視中
 *:課題発生,x:管理外
 #:終了

リスク特定					定性リスク分析				
No.	状況	リスク (要因・事象・影響)	リスク オーナー	特定日	発生 確率	影響度	リスク・ スコア	リスク 等級	計画
1	◎	W社の見積りによる計画のため、生産性が発揮できない可能性があり、全体計画に遅延影響が発生する。	PM	3/1	3	4	12	H	3/2
2	◎	要求仕様書が文書表現のみであり、要求事項も不十分であるため、追加要求が収まらない可能性があり、コストオーバーの影響が発生する。	PM	3/1	3	4	12	H	3/2

③ PMCDF 関係 (法人スポンサー 人材育成 成スタディ・グループ)

- ◆ PMCDF 副読本 第1版
- ◆ PMCDF 副読本 第1版
付録「人格コンピテンシー チェックシート」
(PMCDF 実践研究会)
- ◆ PMのコンピテンシー
改善に向けた調査報告書2016年版



ニュースレター

ニュースレターは、日本支部のイベント報告のほか、新規加入された法人スポンサー様の自社紹介、プロジェクトマネジメントの世界で顕著な活動をされている方からの投稿記事、その他ファクトデータ(PMI関連有資格者数、日本支部会員数、法人スポンサー企業名、理事名簿 他)などを、pdf雑誌形式で掲載しているもので、春夏秋冬の季刊となっています。

PMI Japan Festaで講演いただいた方の具体的講演内容や人となり、日本支部活動に貢献いただいた方のブレイクスルー談など、ホームページでは表しきれない内容を網羅しています。



メールマガジン

日本支部のメールマガジンは、約1万人のPMP®資格保持者(日本支部からのメールマガジンの配信を承諾いただいた方)、約3,400人の日本支部会員の方々、110社を超える法人スポンサーの窓口ご担当の方に対して情報を配信するサービスです。

各種セミナー開催、新刊書籍の割引販売、翻訳記事掲載などのさまざまな情報について、当該ホームページを参照いただくようご案内しています。

頻度は、基本的に1回/月、研修・セミナーなど個別の案内は2~3回/月のペースとなっています。

たとえば、「月例セミナーには当メールマガジンを受け取ったから参加した」という方が毎回半数おいでです。

日本支部会員、プロジェクト・マネジャー、法人スポンサーの方々にとって極めて重要な情報入手ツールとなっています。

2016/08/29 (月) 14:11

owner-info@pmi-japan.org が次の人の代理で送信しました:
PMI日本支部メールマガジン事務局 <ml-magazine@pmi-japan.org>
[info:23226] 【PMI 日本支部メールマガジン】2016年8月度(Vol.91)

■【本日のトピックス】-----

- 『PMI 日本支部主催 PMI Japan Festa 2016』開催のご案内
- 『PMI 日本支部主催 地域セミナー』開催のご案内
- 『PMI 日本フォーラム 2016』のダイジェスト映像を公開しました
- 新規セミナーのご案内
- 新しいスタディー・グループ活動の発足のお知らせ(法人スポンサー限定)

■【支店イベント・セミナーのご案内】

◆【PMI 日本支部主催 PMI Japan Festa 2016】

『PMI Japan Festa 2016』が11月5日(土)・6日(日)に開催されます。
今年は『Think outside the box ~困難を打開できるプロジェクトマネジャーに~』をテーマに、新しい付加価値創造に向け困難な状況を打開して来られた方々を講師としてお招きしています。

また、新しい試みとして今回のFestaでは「予告編 動画」を配信して行きます。講師の方々への事前取材に基づき、興味深い映像をHPに順次掲載いたします。講師の方々の熱い思いをお届けしますので、どうぞご視聴ください。

開催日: 2016年11月5日(土)・6日(日)
講演会場: 慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館藤原洋記念ホール(横浜市港北区)
イベント詳細: https://www.pmi-japan.org/event/open_seminar/other/2016_08_05_pmi_japan_festa2016.php
予告編 動画: https://www.pmi-japan.org/topics/festa/festa2016_yokoku.php

Facebook

ソーシャルメディアによる情報発信源としてFacebookページを活用しています。

PMI 日本支部Webサイトに掲示された「お知らせ」など最新情報の展開だけでなく、PMI 本部やPMI Educational Foundation から発信される情報もご紹介しています。

2016年も利用者の皆さんの「いいね!」でプロジェクトマネジメントに興味をもたれている、より多くの方に最新情報をお届けすることができました。

PMI 日本支部 (PMI Japan Chapter)

1月28日、中部地域で活動するマネジメント系団体が一宮に集い、「連携と交流」をテーマにそれぞれの団体の紹介と2017年の年間イベントスケジュールについて発表を行いました。

【活動報告】2017年1月度PMサロンの【地域共創】中部団体連携 年間スケジュール合同発表会 | トピックス | 一般社団法人 PMI 日本支部

103-0008 Chuo-ku
日本橋区本町4-15-15 三井ビル3F
03-5847-7301
www.pmi-japan.org/
開業時間
Hours 9:30~18:30
現在営業中

出版書籍一覧

日本支部のオンライン・ブックストアでは、プロジェクトマネジメント知識体系ガイド(PMBOK®ガイド)第5版日本語版をはじめとするPMI®標準の日本語訳や、PMP®受験やPMスキルの向上に役立つ書籍を販売しています。
URL: <https://www.pmi-japan.org/bookstore/>

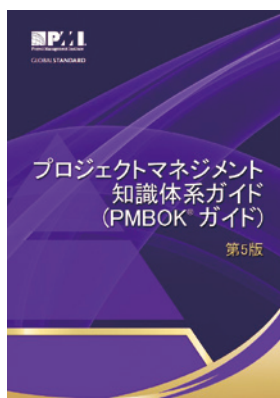
実務者のためのビジネスアナリシス
実務ガイド

著 者：PMI
監 訳：PMI 日本支部
発 行：PMI 日本支部
発行年：2016年

PMBOK®ガイド第5版ソフトウェア拡張版



著 者：PMI
監 訳：PMI 日本支部
発 行：PMI 日本支部
発行年：2015年

プロジェクトマネジメント知識体系ガイド
(PMBOK®ガイド) 第5版日本語版

著 者：PMI
発 行：PMI
発行年：2013年

組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル
(OPM3®) 第3版

著 者：PMI
監 訳：PMI 日本支部
発 行：PMI 日本支部
発行年：2015年

プログラムマネジメント標準
第3版日本語版

著 者：PMI
監 訳：PMI 日本支部
発 行：PMI 日本支部
発行年：2014年

ポートフォリオマネジメント標準
第3版日本語版

著 者：PMI
監 訳：PMI 日本支部
発 行：PMI 日本支部
発行年：2014年

貸借対照表

平成28年12月31日現在
(単位: 円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	120,126,147	【流動負債】	31,299,410
現金及び預金	96,438,497	買掛金	4,939,976
売掛金	9,313,077	未払費用	5,033,010
商 物 附 属 設 備	7,573,772	未払法人税等	35,000
貯 蔵 品	68,040	未払消費税等	1,356,300
前払費用	106,400	前受金	18,351,000
未収入金	6,662,361	預り金	1,584,124
【固定資産】	4,470,113	負債の部合計	31,299,410
【有形固定資産】	1,264,119	純資産の部	
建物附属設備	849,629	【株主資本】	93,332,850
工具器具備品	414,490	基 金	55,000,000
【無形固定資産】	504,554	利益剰余金	38,332,850
電話加入権	37,600	その他利益剰余金	38,332,850
ソフトウェア	466,954	繰越利益剰余金	38,332,850
【投資その他の資産】	2,701,440	純資産の部合計	93,332,850
敷 金	2,701,440	負債及び純資産合計	124,632,260
資産の部合計	124,632,260		

損益計算書

自 平成28年 1月 1 日
至 平成28年12月31日
(単位: 円)

科 目	金 額	
【売上高】		
売上高	117,658,429	
会費収入高	17,854,412	
売上高合計		135,512,841
【売上原価】		
期首商品棚卸高	8,780,389	
書籍関連原価	16,843,489	
セミナー関連原価	29,349,002	
その他原価	4,053,908	
合 計	59,026,788	
期末商品棚卸高	7,912,432	
売上原価		51,114,356
売上総利益		84,398,485
【販売費及び一般管理費】		
販売費及び一般管理費合計		78,839,197
営業利益		5,559,288
【営業外収益】		
受取利息	9,170	
雑収入	60,000	
営業外収益合計		69,170
【営業外費用】		
雑損失	950,672	
営業外費用合計		950,672
経常利益		4,677,786
【特別利益】		
雑収入	229,550	
特別利益合計		229,550
税引前当期純利益		4,907,336
法人税・住民税及び事業税		1,499,798
当期純利益金額		3,407,538

理事・監事名簿

名前	役職	所属
奥澤 薫	会長	KOLABO 代表
片江 有利	副会長	株式会社 プロシード 事業開発部長、シニアコンサルタント
端山 毅	副会長	株式会社 NTTデータユニバーシティ 代表取締役社長
麻生 重樹	PMコミュニティ活性化担当	日本電気 株式会社 金融システム開発本部 システム主幹
井上 雅裕	教育国際化担当	芝浦工業大学 学長補佐、システム理工学部教授
浦田有佳里	企画、地域サービス担当	株式会社HS 情報システムズ システム部 システム業務改革課 専門役
木南 浩司	地域サービス担当	株式会社マネジメントソリューションズ 執行役員 兼 PMソリューションビジネスユニット事業部長 兼 中部・関西支社長
斉藤 学	教育国際化担当	スカイライト コンサルティング株式会社 シニアマネージャー
杉村 宗泰	国際連携担当	日本マイクロソフト 株式会社 エンタープライズサービス部門 SQA/PMO マネージャ
鈴木 安而	ミッション、標準担当	PMアソシエイツ株式会社 代表取締役
高橋 正憲	PMコミュニティ活性化担当	PM プロ 有限会社 代表取締役
竹内 正興	PMコミュニティ活性化担当	一般財団法人 国際開発センター 理事長
武上 弥尋	ミッション、組織拡大担当	日本アイ・ビー・エム株式会社 Certified Executive Project Manager
当麻 哲哉	PMコミュニティ活性化担当	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授
徳永 幹彦	組織拡大担当	株式会社日立インフォメーションアカデミー サービス企画部主管コーディネータ
中嶋 秀隆	標準担当	プラネット株式会社 代表取締役社長
福本 伸昭	PMコミュニティ活性化担当	日本アイ・ビー・エム株式会社 グローバル・ビジネス・サービス 執行役員
三嶋 良武	財政担当	株式会社 三菱総合研究所 社会ICT事業本部 シニアITアーキテクト 兼 政府CIO補佐官(国土交通省担当)
森田 公至	企画、組織拡大担当	日本アイ・ビー・エム株式会社 GTS事業本部 金融インダストリー&システムズ 担当部長
除村 健俊	国際連携、標準担当	株式会社 リコー 理事、ビジネスソリューション事業本部 ビジネス開発センター所長
神庭 弘年	監事/PMI リージョン9メンター	神庭 PM 研究所 代表
平石 謙治	監事	ピー・ティー・ジー・インタナショナル 代表
渡辺 善子	監事	株式会社 日本政策金融公庫 社外取締役



法人スポンサー（108社）

（五十音順）

International Institute for Learning Japan K.K.
アイアンドエルソフトウェア株式会社
アイシンク株式会社
株式会社アイ・ティ・イノベーション
株式会社アイ・ティー・ワン
株式会社アイテック
株式会社アイ・ラーニング
アクシスインターナショナル株式会社
株式会社アジャイルウェア
Innova Solutions, Inc.
株式会社インテック
株式会社インターゲテクノスフィア
株式会社 HGST ジャパン
株式会社 HS 情報システムズ
MS&AD システムズ株式会社
NCS&A 株式会社
NDI ソリューションズ株式会社
NEC ネクサソリューションズ株式会社
株式会社 NSD
株式会社 NTT データ
株式会社 NTT データ アイ
株式会社 NTT データ 関西
SCSK 株式会社
株式会社エクサ
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
株式会社 エル・ティー・エス
株式会社大塚商会
キャノン IT ソリューションズ株式会社
クオリカ株式会社
株式会社 クレスコ
Kepner-Tregoe Japan, LLC.
株式会社建設技術研究所
株式会社神戸製鋼所
コベルコシステム株式会社
コンピューターサイエンス株式会社
JBCC 株式会社
株式会社 JSOL
株式会社ジェーエムエーシステムズ
株式会社シグマクス
株式会社システムインテグレータ
システムスクエア株式会社
株式会社システム情報
株式会社 シティアスコム
情報技術開発株式会社
新日鉄住金ソリューションズ株式会社
住友電工情報システム株式会社
SOMPO システムズ株式会社
ソニーセミコンダクターソリューションズ株式会社
ソフトバンク・テクノロジー 株式会社
TAC 株式会社
第一生命保険株式会社
株式会社タリアセンコンサルティング
千代田システムテクノロジーズ株式会社

TDCソフトウェアエンジニアリング株式会社
TIS 株式会社
株式会社 TRADECREATE
東芝インフォメーションシステムズ株式会社
東芝テック株式会社
株式会社トヨタコミュニケーションシステム
株式会社東レシステムセンター
日揮株式会社
ニッセイ情報テクノロジー 株式会社
日本アイ・ピー・エム株式会社
日本アイ・ピー・エム・ビズインテック株式会社
株式会社日本ウィルテックソリューション
日本クイント株式会社
日本システムウェア株式会社
日本自動化開発株式会社
日本証券テクノロジー 株式会社
日本情報通信株式会社
日本電気株式会社
日本電子計算株式会社
日本ビジネスシステムズ株式会社
日本ヒューレット・パッカード株式会社
日本プロセス株式会社
日本マイクロソフト株式会社
日本ユニカ・システムズ株式会社
日本ユニシス株式会社
ニューソン株式会社
株式会社ネクストスケープ
株式会社野村総合研究所
ビジネステクノクラフツ株式会社
株式会社ビジネス・ブレイクスルー
日立 INS ソフトウェア株式会社
株式会社日立インフォメーションアカデミー
株式会社 日立産業制御ソリューションズ
株式会社 日立システムズ
株式会社日立製作所
株式会社日立ソリューションズ
日立物流ソフトウェア株式会社
富士ゼロックス株式会社
株式会社富士ゼロックス総合教育研究所
富士電機株式会社
プライスウォーターハウスクーパース株式会社
プラネット株式会社
株式会社プロシード
株式会社マネジメントソリューションズ
三菱スペース・ソフトウェア株式会社
三菱総研 DCS 株式会社
株式会社三菱総合研究所
三菱電機株式会社
株式会社ラック
ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
株式会社リコー
リコー IT ソリューションズ株式会社
リコージャパン株式会社
株式会社ワコム

アカデミック・スポンサー（34組織）

（五十音順）

青山学院大学 国際マネジメント研究科
愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
大阪府立大学 21世紀科学研究機構 産学協同高度人材育成センター
鹿児島大学産学官連携推進センター
金沢工業大学
川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻
京都光華女子大学
京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究支援センター
慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
慶應義塾大学・理工学部・管理工学科・飯島研究室
神戸女子大学 家政学部家政学科
国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
サイバー大学
産業技術大学院大学
芝浦工業大学
就実大学 経営学部 経営学科
千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
中央大学 文学部 社会情報学専攻
学校法人 中部大学 経営情報学部
筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
東京工科大学 大学院 コンピュータサイエンス専攻
公立大学法人公立はこだて未来大学
公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
広島修道大学経済科学部
北海道情報大学
北海道大学サステイナビリティ学教育研究センター
北海道大学 大学院情報科学研究科
山口大学工学部知能情報工学科
山口大学大学院技術経営研究科
早稲田大学ビジネススクール
早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科

行政スポンサー（2組織）

三重県桑名市
滋賀県大津市役所 市民部

2016年12月31日現在

商標等について

「PMI」とPMIのロゴ、「PMP」、「PMBOK」、「PgMP」、「Project Management Journal」、「PM Network」、「PMI Today」および「OPM3」は、Project Management Institute Inc. (以下 PMI Inc.) の登録商標です。

一般社団法人 PMI日本支部

〒103-0008

東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

TEL:03-5847-7301

FAX:03-3664-9833

<https://www.pmi-japan.org/>

info@pmi-japan.org